元総社北小学校遺跡

元総社北小学校プール改築建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１．１

前橋市教育委員会
技研コンサル株式会社

元総社北小学校遺跡

元総社北小学校プール改築建築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１．１

前橋市教育委員会
技研コンサル株式会社

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社北小学校遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分僧寺・国分尼寺などを中心に連綿と遺跡が広がる地域であります。この地域は、公共事業に伴い数多くの発掘調査実績があり、検出された遺構や遺物は、質、量ともに市内では随一を誇ります。今回の調査は、元総社北小学校プール改築建築工事に伴い実施されました。調査の結果、弥生時代後期、古墳時代後期、飛鳥時代、平安時代の住居跡、中世以降では道路状遺構などが検出されました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和３年１月

前橋市教育委員会
教育長　　吉川　真由美

例　　言

1　本報告書は元総社北小学校プール改築建築工事に伴う「元総社北小学校遺跡」の発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び整理事業の体制は下記のとおりである。

遺跡名	元総社北小学校遺跡（前橋市 0118 遺跡）（前橋市遺跡コード：２Ａ 260）
遺跡所在地	群馬県前橋市総社町総社 3149
監理指導	小峰　篤（前橋市教育委員会）
調査担当	中村岳彦（技研コンサル株式会社）
調査員	松村春樹（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和２年 10 月１日～令和２年 12 月２日
整理事業期間	令和２年 11 月 24 日～令和３年１月 29 日
調査面積	208 ㎡

3　発掘調査参加者及び整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子（技研コンサル株式会社）　芦川良紀　安藤三枝子　伊丹茂一　稲数美枝子　宇貫美代子
大塚とし子　笠原たく江　加藤知惠子　鴨田榮作　菊田武明　小池初美　小林克宏　設樂和男　杉田友香
須田勝美　田代京子　田代光男　立川千栄子　田所順子　土屋和美　永井憲一　中嶋知恵子　細野竹美
水野さかゑ　村田稔男　矢島正志

4　本書の編集は松村が行い、原稿執筆はＩを小峰　篤（前橋市教育委員会）、他を松村が担当した。

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

元総社北小学校、元総社中学校、前橋市教育施設課、山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『渋川』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、住居跡：Ｈ、道路跡：Ａ、溝跡：Ｗ、井戸：Ｉ、土坑：Ｄ、ピット：Ｐである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・溝跡・土坑・ピット・道路状遺構・その他・・・1/60　カマド・・・1/30
全体図・・・1/150

遺物　土器・石製品・瓦・・・1/3、1/4、1/6　金属製品・・・1/2

5　本文及び表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺構断面のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　粘土範囲：　灰範囲：　硬化面範囲：　地山：

遺物　須恵器（還元焔）断面：　須恵器（酸化焔）断面：　灰釉陶器断面：
灰釉施釉範囲：　研磨範囲：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Ｈ r-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）
Ｈ r-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：５世紀末～６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　　次

はじめに

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1

Ⅲ　調査の方針と経過 …… 5

Ⅳ　基本層序…… 7

Ⅴ　遺構と遺物

1．　竪穴住居跡…… 7

2．　道路状遺構…… 12

3．　溝…… 12

4．　井戸、土坑、ピット…… 12

Ⅵ　発掘調査の成果と課題…… 26

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置 …… 1
Fig.2　周辺遺跡図 …… 3
Fig.3　周辺調査地点とグリッド設定図 …… 4
Fig.4　全体図・基本層序 …… 6
Fig.5　H－1～3号住居跡 …… 13
Fig.6　H－4～6号住居跡 …… 14
Fig.7　H－6・7号住居跡 …… 15
Fig.8　H－8～12・17・18号住居跡 …… 16
Fig.9　H－13号住居跡 …… 17
Fig.10　H－13・14号住居跡…… 18
Fig.11　H－14・15・19号住居跡…… 19
Fig.12　H－16・20号住居跡…… 20
Fig.13　H－21・22号住居跡、A－1号道路状遺構、W－1・2号溝跡…… 21
Fig.14　I－1号井戸、D－2・5・7・9～13号土坑…… 22
Fig.15　H－3～8・13出土遺物…… 23
Fig.16　H－12・14・15・18～21、D－2、遺構外出土遺物…… 24
Fig.17　元総社北小学校　住居跡変遷図…… 27

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表 …… 3
Tab.2　井戸、土坑、ピット計測表 …… 22
Tab.3　元総社北小学校遺跡出土遺物観察表…… 25
Tab.4　周辺遺跡時期別住居跡軒数表…… 28

写真図版目次

PL.1　調査区全景（上が北）
調査区全景（北東から）
PL.2　H－1号住居跡全景（西から）
H－2号住居跡全景（南西から）
H－3号住居跡全景（西から）
H－4号住居跡全景（西から）
H－4号住居跡カマド全景（西から）
H－5号住居跡全景（南西から）
H－6号住居跡全景（西から）
H－6号住居跡カマド全景（西から）
PL.3　H－7号住居跡全景（南西から）
H－7号住居跡カマド全景（北西から）
H－8号住居跡全景（西から）
H－9号住居跡カマド全景（西から）
H－10号住居跡全景（北西から）
H－11号住居跡全景（南から）
H－12号住居跡全景（北東から）
H－13号住居跡全景（南西から）
PL.4　H－13号住居跡カマド全景（南西から）
H－14号住居跡全景（西から）
H－14号住居跡カマド全景（西から）
H－15号住居跡全景（南西から）
H－16号住居跡全景（南西から）
H－17号住居跡全景（南西から）
H－18号住居跡全景（南から）
H－19号住居跡全景（西から）
PL.5　H－20号住居跡全景（北西から）
H－21号住居跡全景（北西から）
H－22号住居跡全景（南西から）
B区作業風景（北東から）
遺跡説明会の様子（北から）
PL.6　遺物写真
PL.7　遺物写真

引用・参考文献

論文等

前橋市史編さん委員会　1971　『前橋市史１』

発掘調査報告書

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007　『総社閑泉明神北Ⅳ遺跡元総社牛池川遺跡元総社北川遺跡元総社小見内Ⅴ遺跡』
近藤義雄　『天狗岩用水の研究』　群馬郡総社小学校　（出版年不明）
都丸十九一　1947　『天狗岩堰開鑿史－江戸初期水利開發の一例－』　群馬國語文化研究所
前橋市教育委員会　2012　『総社稲荷塚大道西 No2 遺跡』
前橋市教育委員会　2016　『元総社中学校遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999　『総社閑泉明神北遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社蒼海遺跡群総社甲稲荷塚大道西Ⅰ・Ⅱ遺跡、総社閑泉明神北Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社蒼海遺跡群総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡総社閑泉明神北Ⅲ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社蒼海遺跡群元総社小見 V 遺跡元総社小見内 VI 遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅶ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅷ遺跡総社甲稲荷塚大道西Ⅳ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅸ遺跡総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005　『元総社蒼海遺跡群元総社小見内Ⅹ遺跡』

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長　山本　龍（教育施設課）（以下「前橋市」という。）が施工する元総社北小学校プール改築建築工事に伴い実施されたものである。

当該工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（前橋市 0118 遺跡）であることから、試掘確認調査（以下「試掘調査」という。）を令和２年８月 19 ～ 20 日に実施した。試掘調査の結果、古代の竪穴住居跡が検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて前橋市と協議を行なった。プール建築計画と試掘調査結果を基に埋蔵文化財保護措置について協議したところ、配管部分や管理施設建物基礎部分（以下「配管部分等」という。）については掘削が深くまで及ぶことから遺跡の現状保存は困難であると判断した。それ以外のプール本体部分については、遺跡の保護層が確保できるため現状保存とした。このことから、配管部分等に限定し、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで前橋市と合意した。

同年９月１日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委直営による発掘調査実施は、既に他の発掘調査予定があるため困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年 10 月１日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社北小学校遺跡」（遺跡略コード：２Ａ 260）は学校名を採用した。

Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１．地理的環境（Fig. １・２）

元総社北小学校遺跡は前橋市の南西部に位置する。本遺跡から東へ 2.5km には群馬県庁が、南へ 2.2km には前橋インターチェンジが所在し、東には元総社中学校が隣接する。遺跡地は田園地帯として利用されていたが、近年では西毛広域幹線沿いに商業施設が次々と新設され、その様相が刻々と変化している。

遺跡地は、前橋台地と榛名山南東麓の相馬ヶ原扇状地の移行地帯にあたり、牛池川の浸食作用によって形成された低地平野と台地の崖線近くに立地する。東へ２km には現利根川が南流する。前橋台地は約２万年前に浅間山の山体崩落により生じた前橋泥流を母体とする。この頃の元利根川は総社や元総社の辺りを流れていたと考えられている。相馬ヶ原扇状地は約 1.7 万年前に榛名山の山体崩落により生じた陣場岩屑なだれにより形成された。前橋泥流により埋めならされた前橋台地原面では一時的に排水系が消失し、湿潤地があらわれた。前橋泥炭層はこのような湿地性の環境に堆積が行われた。元利根川が残した低地は相馬ヶ原扇状地を水源とする染谷川・牛池川・八幡川などの流れに影響を与えた。これらの中小河川は榛名山の裾野を南東へ流れるが、元利根川が残した

低地の影響を受け、遺跡地周辺で流れを大きく南へ変える。急激な流れの変化は洪水の温床となり、度重なる洪水の堆積により遺跡地の周辺には総社砂層が形成された。総社砂層の堆積と中小河川による開析の反復は、微高地と低地を残しつつ台地を形成した。台地が安定すると、中小河川の流れも現在の場所に落ち着き、今日まで下刻を続けている。その後、台地上にはクロボク土が形成され、歴史時代に起きた度重なる火山災害や人為的な地形改変の累積を経て、台地表層は次第に平坦化してきたと推測できる。

２．歴史的環境（Fig. ２・３、Tab. １）

本遺跡周辺にて確認される最古の遺構は現在のところ、縄文時代前期に遡る。該期の住居跡は、蒼海遺跡群（３・４・40・41・94 街区※以下「蒼海」）などで確認され、染谷川左岸の自然堤防に沿って帯状に分布する。中期の住居跡は、蒼海（３・40・116・123）・小見内Ⅶ遺跡などに確認される。後期～晩期の遺構は少ないが、蒼海（10・101）に確認される。本遺跡では、土器片や黒曜石の石鏃（遺構外－１）が出土した。

弥生時代の遺構は少ないが、前期末～後期の遺物は、蒼海（37・39・61）・小見内Ⅲ遺跡などで出土しており、現状の分布は牛池川右岸の一帯に集中する。本遺跡でも樽式期の住居跡を調査した。

古墳時代前期の遺構は前代の分布を踏襲する。他方で牛池川左岸では集落域のほか、蒼海（128）で畠跡、低地平野内の閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡などで水田跡が確認され、蒼海（62・81・100）などには周溝墓が推定されており、集落域・生産域・墓域を含む一体的な生活の単位が確認される。中期になると牛池川の一帯では左岸を中心に遺構が分布し、蒼海（35・81・91）などで多くの住居跡が確認される。元総社北川遺跡など、低地内にはＨ r-FA 洪水層に覆われた小区画水田跡が確認され、この頃までには、牛池川低地平野の広い範囲が開発されたと推測できる。後期になるとほぼ全域で住居跡が確認される。約 600m 東には、６世紀後半頃の築造と推定される稲荷山古墳［43］が位置し、７世紀には約 1.5km 北東に総社古墳群や、700m 北に山王廃寺［ホ］が建立されて、政治的中枢を形成する。本遺跡周辺では蒼海（７・９・10・35）で、大規模な掘立柱建物跡群と区画溝、飛鳥Ⅱの畿内産暗文坏が出土しており、遺構の主軸方向は、山王廃寺下層の大規模掘立柱建物跡群に近似する。７世紀の住居跡は広く分布するが、前代に比べると減少する。本遺跡でも該期の住居跡を調査した。

奈良時代、本遺跡の周辺は上野国府の推定域にあたり、国庁の位置にはＡ～Ｄの４案が推定される。一方、この域内では８世紀後半から９世紀末葉まで、住居跡は確認されていない。また該期には直進性を指向する大規模な道路網も整備され、蒼海（14・30・141・17 街区）・国府６トレンチなどで確認された南北道路は、推定「日高道」（Ｄ）と山王廃寺西側に推定される「南北古道」（近藤 1981）を直線的に繋ぐ一連の道路の一部と予想される。国府域の特殊性は出土遺物にも反映され、暗文坏や、須恵器盤・高盤の出土率は他地域に比べて高く、30 地点以上に出土例がある。本遺跡では該期の遺構・遺物は出土していない。

平安時代になると、中小規模の住居跡が無数に確認される。元総社中学校遺跡（58）からは、カマド構築材に転用された「方光」銘の丸瓦が出土した。上野国府域の空間構成は、近年では地点毎の特徴を示す遺物も増加し、検討の俎上にある。例えば、国府域の北西端で国分僧寺・尼寺にも近い、蒼海（26・40・41・116）、小見Ⅱ遺跡などでは、腰帯具・円面硯の出土率が高く、鉄鉢形土器・三足盤・金の付着した灰釉陶器、富壽神寶などの特徴的な遺物や、墨書土器が出土している。国府域の西端にあたる染谷川左岸自然堤防上の蒼海（８・13）では緑釉陶器の出土率が特に高い。国府域の北東端にあたる牛池川右岸の蒼海（37・39・53）などでは、馬具・小札・刀装具・鉄鏃などの出土が目立つ。なお、国府に関連すると考えられる区画溝は、蒼海（２・９・36・58）、閑泉樋遺跡などで確認されている。上野国府がいつまで本来的な意味を有していたかは不明だが、平安時代後半期の国府域を特徴づける遺物も地点的に確認できる。国庁Ｂ案推定域の国府 50 トレンチでは「阿部私印」銅印が出土した。国庁Ｃ案推定域の蒼海（99・127）では、多角柱状の長い棒状脚部をもつ白色の酸化焔焼成高坏が数点出土し、蒼海（127）で出土した「ての字状口縁」皿とともに、都城の器種組成との類似性が指摘される。蒼海（137）では八稜鏡を含む複数の鏡・鉄鐸・鉄鈴などが集中的に出土し、遺物の質において周囲と隔絶している。

また、蒼海（75 街区）では、小銅仏や銅印の鋳型・取瓶・金属箔などが鋳造工房から出土し、類似の小銅仏は蒼海（95）から出土している。本遺跡でも多数の住居跡や遺物が出土し、緑釉陶器片なども出土した。

国府域は、蒼海城［ｉ］により大規模に地形改変されている。国庁推定域内の、蒼海（23・29・65・122・124・126）などでは蒼海城中枢部の堀跡群が、蒼海（21）では、二の丸の柱穴群が確認され、帰属時期は 15 世紀を中心とする。関連遺物は、蒼海（23・25）で 12 ～ 15 世紀の貿易陶磁が多数出土している。

慶長６年（1601 年）、秋元長朝が総社領主になると蒼海城は廃城し、総社城［ⅱ］が築城された。長朝は領内に天狗岩用水［ａ］を開削した。天狗岩用水の水路網は、五千石堰用水［ｂ］や小笠原堰用水［ｃ］により補われるが、これらは相馬ヶ原扇状地を水源とする午王頭川や八幡川の中小河川から取水し、一方で利根川から取水する天狗岩用水とは異なる灌漑系統をもつ。その開削時期は天狗岩用水を遡る可能性があり、上野国神名帳に残る「小笠原溝口明神」の記載は、小笠原堰用水を指すとの指摘もある（都丸 1947、近藤［出版年不詳］）。また、甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区や、西部第一落合遺跡群（１）［45］では、これらの用水路と同一方向に流下する、As-B 降下以前に埋没した大規模な溝跡が確認されている。

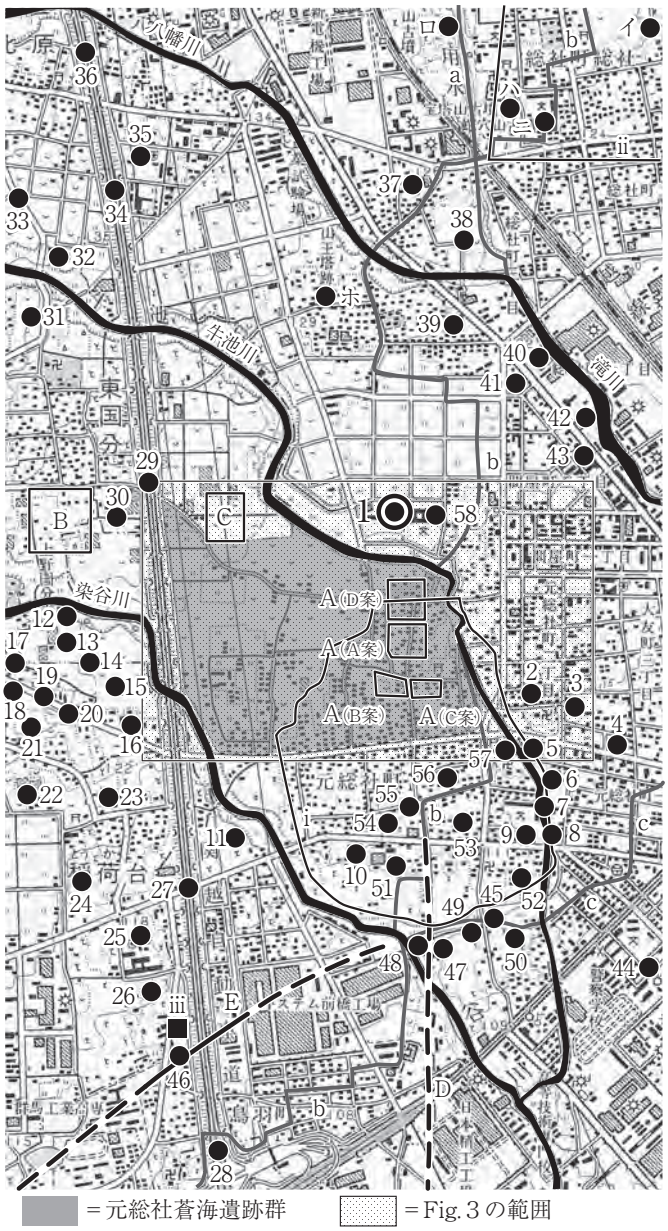


Fig. 2　周辺遺跡図（Ｓ＝1/25,000）

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	**元総社北小学校遺跡**	21	塚田村東Ⅲ遺跡	41	産業道路西遺跡	ハ	宝塔山古墳
2	屋敷・屋敷Ⅱ遺跡	22	塚田村前遺跡	42	稲荷塚東遺跡	ニ	蛇穴山古墳
3	堰越Ⅱ遺跡	23	塚田村東Ⅱ・稲荷台村北遺跡	43	稲荷山古墳	ホ	山王廃寺跡
4	堰越遺跡	24	稲荷台村南遺跡	44	元総社稲葉遺跡	A	上野国庁推定地（Ａ～Ｄ案）
5	大友屋敷Ⅱ・大友屋敷Ⅲ遺跡	25	稲荷台・北金尾遺跡	45	西部第一落合遺跡群（１）	B	上野国分僧寺
6	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	26	稲荷台東金尾遺跡	46	国府 45 トレンチ	C	上野国分尼寺
7	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ	27	鳥羽遺跡	47	国府 52 トレンチ	D	日高道推定地
8	寺田遺跡	28	中尾遺跡	48	国府 53 トレンチ	E	東山道駅路国府ルート推定地
9	元総社小学校遺跡、国府 20・21・30・41・42・48・51 トレンチ	29	上野国分僧寺・尼寺中間地域	49	国府 24a・b トレンチ	i	蒼海城跡
10	天神・天神Ⅱ遺跡	30	上野国分二寺中間地域遺跡	50	国府 25 トレンチ	ii	総社城跡
11	弥勒・弥勒Ⅱ遺跡	31	西国分薬師廻り遺跡	51	国府 26・46 トレンチ	iii	金尾城跡
12	元総社西川遺跡	32	国分境Ⅲ遺跡	52	国府 23 トレンチ	a	天狗岩用水
13	上野国分寺参道遺跡	33	西国分Ⅱ遺跡	53	国府 31・32 トレンチ	b	五千石堰用水
14	元総社西川・塚田中原遺跡	34	国分境遺跡	54	国府 54 トレンチ	c	小笠原堰用水
15	塚田中原遺跡	35	北原一町畑Ⅲ遺跡	55	国府 15・16 トレンチ		
16	塚田村東遺跡	36	北原遺跡	56	国府 43・44 トレンチ		
17	引間松葉遺跡Ⅲ区	37	村東遺跡	57	国府 17 ～ 19・22 トレンチ		
18	塚田中原遺跡	38	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅳ	58	元総社中学校遺跡		
19	塚田中原遺跡Ｏ区	39	昌楽寺廻向・昌楽寺廻向Ⅱ遺跡	イ	遠見山古墳		
20	塚田村東Ⅳ遺跡	40	産業道路東遺跡	ロ	愛宕山古墳		

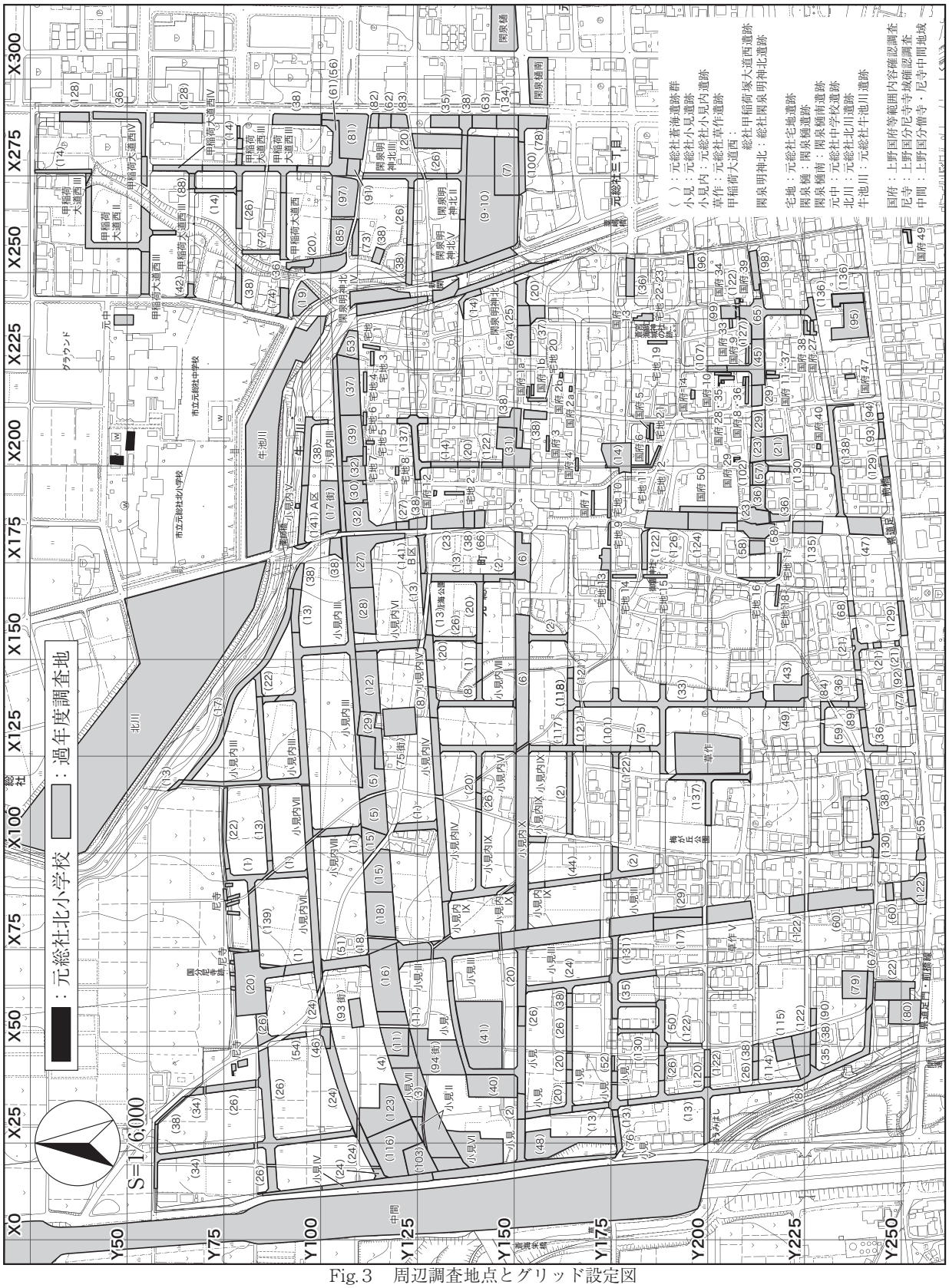


Fig.3　周辺調査地点とグリッド設定図

Ⅲ　調査の方針と経過

１．調査範囲と基本方針

今回の発掘調査は、前橋市教育委員会が実施した試掘調査の結果に基づき、開発に伴い現状保存が不可能な部分を当該箇所として調査をした。調査面積は 208 ㎡である。調査面は１面で、古代の集落跡を主な調査対象とした。グリッド座標については、国家座標（日本測地系第Ⅸ系）Ｘ＝ 44000.000、Ｙ＝－ 72200.000 を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をＸ、緯線をＹとして北西隅を基点に番号を付与した。調査区の公共座標は次の通りである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
Ｘ 200、Ｙ 50	Ｘ＝ 43800.000 ｍ、Ｙ＝－ 71400.000 ｍ	Ｘ＝ 44154.8980 ｍ、Ｙ＝－ 71691.7582 ｍ

発掘調査は 0.45 ㎥級バックホウを１台使用して調査区の南東側より表土掘削を開始した。現況表土が盛土の為、安全対策として深さ１ｍの掘削につき幅50cm の段をつけた。以下は人力による鋤簾を用いて遺構を検出し、遺構の掘り下げ・精査には移植コテを用いた。南東の調査区をＡ区、北西の調査区をＢ区と呼称し、遺構番号は調査区にかかわらず連番で付与した。住居に伴う遺構については、「Ｐ１」などと "－" 無しの表記とした（単独の場合は「Ｐ－１」と "－" を入れた）。

調査遺構の記録については、測量の平面図はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図は一部オルソーフォトを併用して図化している。写真記録は 35mm フィルムカメラ（モノクロ・リバーサル）とデジタルカメラの３種類を使用した。調査区全景撮影についてはドローンにて実施した。

報告書の作成に際しては、DTP の手法を用いた。遺構図については、原図の作図から報告書掲載の編集図に至るまで一貫してデジタルデータを用い、遺物図については、断面形の計測と外面調整の描画にキーエンス社製３Ｄスキャナー（VL-300）を多用し、デジタルトレースを行った。遺物写真の撮影にはデジタルカメラを用いた。データ化されたこれら一切の調査記録を、レイアウトソフトを用いて組版し、刊行した。

２．調査経過

令和２年 10 月１日～２日より調査に先んじて、周辺安全対策と調査区の設定を行う。調査区は前橋市教育施設課により計測・設定された。10 月５日～８日にかけ重機を用いて、Ａ区からＢ区へと表土の除去を行った。旧プール建設前の耕作土直下にあたる現地表下約 1.5 ～ 2.0 ｍで、住居跡のカマド等を確認することができたため、この面を遺構確認面とした。層位としては、As-C 混入黒色土層～クロボク土に相当すると判断できる。表土除去に並行して、10 月７日からＡ区の遺構調査を開始したが、激しい重複のため遺構プランの平面的な把握は困難であった。そのため、カマドが確認できた最終段階の住居跡群を調査後、任意のトレンチを複数掘削し、遺構底面の把握と断面観察を補足的に行うことによって、各遺構の重複関係と範囲を推定し、随時遺構調査を開始した。想定よりも遺構が多い為、10 月 12 日より作業員を増員した。また遺構掘削時に湧水が危惧されていたが、農閑期のため井戸を除いて湧水しなかった。10 月 20 日には同様の手法でＢ区の調査を開始した。10 月 29 日に、元総社北小学校の全学年と元総社中学校の有志の生徒を対象に、遺跡の見学会を行った。約 400 名が来跡し、発掘中の住居跡や出土遺物を見学していただいた。11 月 18 日には全ての遺構を完掘して、調査完了の確認が行われた。11 月 19 日には、調査区の全景写真撮影を行った。11 月 20 日～ 25 日にかけて、調査機材等の撤収作業を行い、11 月 26 日～ 27 日に 0.45 ㎥級バックホウを用いて埋め戻しを行った。12 月１日～２日に周辺安全対策とプレハブの撤去を行い、現地における調査を終了した。例年では北風が厳しく吹き、調査は寒さとの戦いにもなるが、今年は陽気に恵まれ穏やかな気候の中で調査を行えた。

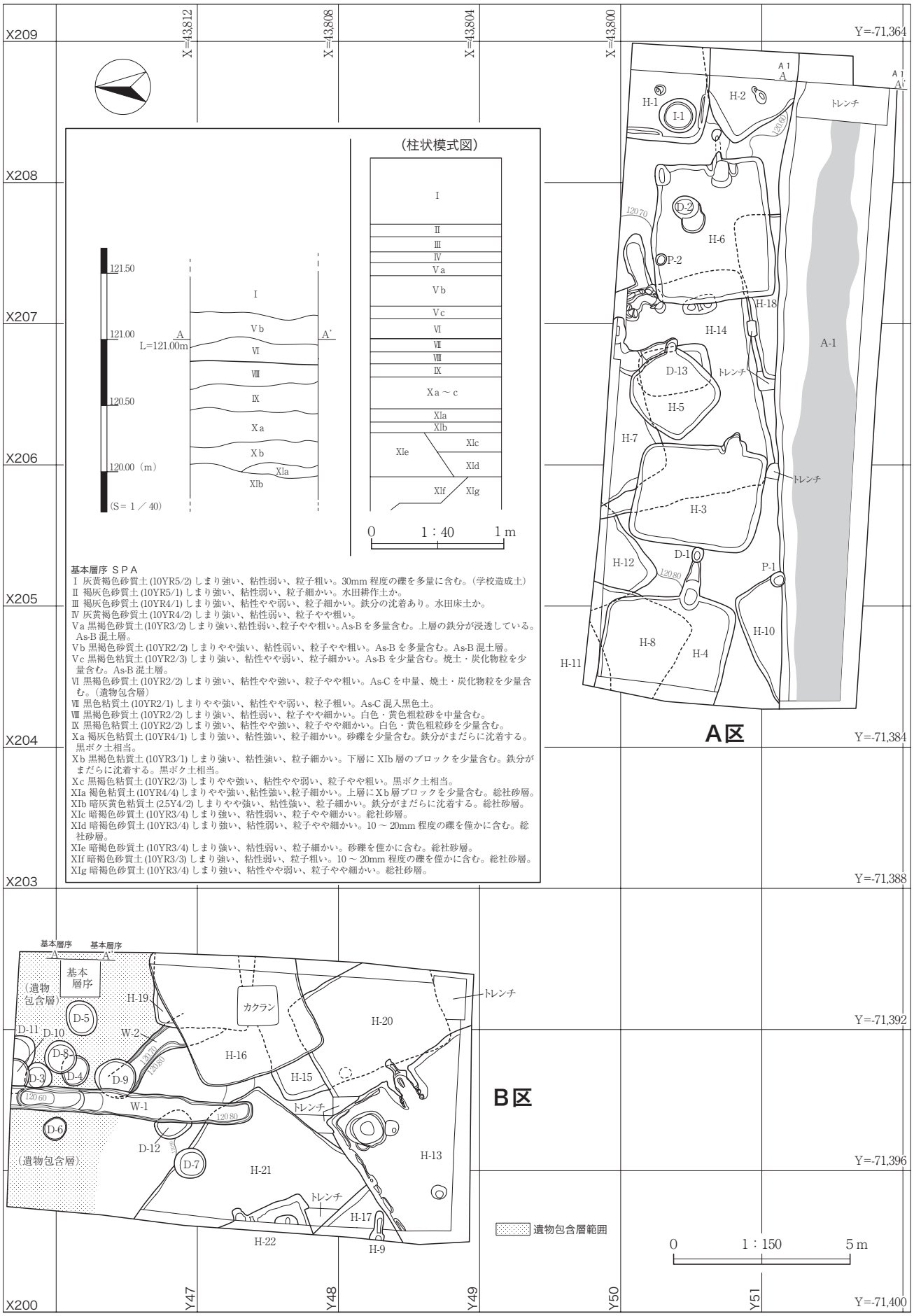


Fig. 4　全体図・基本層序

Ⅳ　基本層序

調査区全域はプール造成時に盛土されており（Ⅰ層）、一部分にはプール施設の基礎も残存しているが、遺構確認面では遺存状態が非常に良い。学校プール造成以前の耕作土に由来するⅡ～Ⅳの下位に堆積するⅤａ～ｃ層はAs-B混土層である。As-B軽石の一次堆積層は確認できないが、Ⅴ層の堆積が非常に厚く、そのため遺存状態が良好である。Ⅵ層は遺物包含層で、堆積はＢ区の北側で確認できた。地点によってはⅥ層とⅧ層の間にAs-C混入黒色土、いわゆる「Ｃ黒」が確認できた（Ⅶ層）。Ⅹａ～ｃ層はクロボク土に相当するが、湿性を帯び粘質土化している。Ⅺａ～ｆ層は総社砂層に相当する。ほぼ全域で粘質土化しているが、一部粗い砂質の層も存在する。調査区の北西から南東にかけてⅪ層中に遺跡形成以前の自然流路が埋没しており、その流水による影響と推測できる。なお、遺構確認面はⅥ層の直下とした。

Ⅴ　遺構と遺物

１．竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig. ５、PL. ２）

位置　Ａ区。X 208、Y 50　**主軸方向**　（Ｅ－８°－Ｓ）　**規模**　東西軸（2.03）m・南北軸（2.08）m・深さ0.4 m。竪穴南西部分のみ調査。　**面積**　（4.33）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。　**床面**　Ｉ－１の周辺を除き、全体的に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－２、Ｉ－１と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－２→Ｉ－１。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　Ｐ１は竪穴南西の主柱穴と判断した。深さ0.09 m・長軸0.32 m。　**壁周溝**　西側と南側の壁際に確認できる。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器碗・壺、須恵器羽釜、土師器甕（武蔵型甕）の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から９～10世紀と推定。

Ｈ－２号住居跡（Fig. ５、PL. ２）

位置　Ａ区。X 208、Y 50・51　**主軸方向**　（Ｅ－33°－Ｎ）　**規模**　東西軸（2.14）m・南北軸（2.84）m・深さ0.31 m。竪穴西角部分のみ調査。　**面積**　（3.28）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。　**床面**　Ｐ１の周辺を除き、全体的に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－１、Ａ－１と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－１→Ａ－１。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　Ｐ１は竪穴北西の主柱穴と判断した。深さ0.28 m・長軸0.58 m。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器碗、須恵器羽釜、須恵器坏（酸化焔焼成）の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から10～11世紀と推定。

Ｈ－３号住居跡（Fig. ５、PL. ２）

位置　Ａ区。X 205・206、Y 50・51　**主軸方向**　Ｅ－８°－Ｓ　**規模**　東西軸2.65 m・南北軸3.57 m・深さ0.3 m。　**面積**　10.24㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。　**床面**　カマド前から西側に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－７・14、Ｄ－１と重複。新旧関係はＨ－14→本遺構→Ｈ－７→Ｄ－１。　**カマド**　東壁に確認。中央からやや南に位置する。全長0.94 m・燃焼室内幅0.41 m・煙道内幅不明。遺存状態は良く、右袖に構築材と判断できる石材を確認。支脚は確認できず。燃焼室は全体的に被熱し硬い。焚口部から燃焼室中央にかけて火床面と灰層が確認できる。煙道は非常に短い。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から光ヶ丘１号窯式期の灰釉陶器碗（１）、床面直上から黒笹90号窯式期の灰釉陶器皿（２）などが出土。　**時期**　カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から10世紀前半と推定。

Ｈ－４号住居跡（Fig. 6、PL. 2）

位置　Ａ区。X 204・205、Y 49・50　**主軸方向**　Ｅ－９°－Ｓ　**規模**　東西軸（2.65）m・南北軸 3.57 m・深さ 0.35 m。竪穴東側 2/3 部分を調査。　**面積**　（9.20）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　カマドの手前から西側に硬化面がまだらに確認できる。　**重複**　Ｈ－８・11・12、Ｄ－１と重複。新旧関係はＨ－11・12→Ｈ－８→本遺構→Ｄ－１。　**カマド**　東壁の南寄りに確認。全長（1.54）m・燃焼室内幅 0.46 m・煙道内幅 0.22 m。支脚は確認できず。燃焼室は全体的に被熱し硬い。焚口部に火床面と灰層が確認できる。煙道は長く底面は平坦。煙出し部にはＤ－１が重複しており詳細は不明。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から須恵器埦や土師器土釜（１・２）などが出土。１の埦は、酸化焔焼成で大形。　**時期**　カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から 11 世紀と推定。

Ｈ－５号住居跡（Fig. 6、PL. 2）

位置　Ａ区。X 206、Y 50　**主軸方向**　Ｅ－11°－Ｓ　**規模**　東西軸 2.16 m・南北軸 1.96 m・深さ 0.25 m。　**面積**　4.53 ㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む暗褐色土を基調とする。上層は As-C を多く含み、下層から床面直上にかけて被熱した粘土塊を多く含む。　**床面**　確認できず。　**重複**　Ｈ－７・14 と重複。新旧関係はＨ－14→本遺構→Ｈ－７。　**カマド**　竪穴東隅の被熱部を隅カマドと判断したが、重複が激しく判然としない。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　１の緑釉陶器と３の土製品は、重複するＤ－13 に伴う可能性がある。３の土製品は、竈形土製品の可能性がある。焼成は甘いが表面に平滑な調整面があり、同一個体と判断できる小片がＤ－13 からも多数出土した。２の須恵器横瓶は、重複するＨ－14 に伴う可能性がある。　**時期**　重複関係から 10 世紀と推定。　**備考**　形状等変則的で、竪穴住居跡ではない可能性もある。下位に重複するＨ－14 の調査段階で確認したＤ－13 の直上に位置しており、遺物の帰属時期も近く、Ｈ－５とＤ－13 は、一連の焼成土坑の可能性がある。

Ｈ－６号住居跡（Fig. 6・7、PL. 2）

位置　Ａ区。X 207・208、Y 50・51　**主軸方向**　Ｅ－８°－Ｎ　**規模**　東西軸 3.92 m・南北軸 3.42 m・深さ 0.35 m。　**面積**　13.41 ㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む暗褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　カマド手前から竪穴中央にかけて硬化面が広がる。　**重複**　Ｈ－14・18、Ｄ－２、Ｐ－２と重複。新旧関係はＨ－18→Ｈ－14→本遺構→Ｄ－２・Ｐ－２。　**カマド**　東壁の南寄りに確認。全長 1.65 m・燃焼室内幅 0.48 m、煙道内幅 0.14 m。燃焼室は全体的に被熱し硬い。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は不明瞭で、煙道は長く底面は平坦。火床面は確認できず。焚口部に灰層を確認。右袖部よりほぼ完形の小型甕が出土した。底部の破片が南 0.5 mの位置より出土した。煙道部の天井は崩落していない。　**貯蔵穴**　確認できず。　**ピット**　北東隅のＰ１は深さ 0.27 m・長軸 0.6 m。東西に長い楕円形。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　床面直上から須恵器蓋（１）、カマド内からの土師器坏と小型甕（２・３）などが出土。　**時期**　カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から７世紀後半と推定。

Ｈ－７号住居跡（Fig. 7、PL. 3）

位置　Ａ区。X 205～207、Y 49・50　**主軸方向**　Ｓ－24°－Ｅ　**規模**　東西軸（3.71）m・南北軸（1.91）m・深さ 0.4 m。竪穴西部 1/5 部分を調査。　**面積**　（4.38）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。東壁際の最下層には、図示した大型の岩塊が混入する。　**床面**　カマド手前から全体的に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－３・５・14 と重複。新旧関係はＨ－14→Ｈ－３・５→本遺構。　**カマド**　造り替えており、新旧２基確認した。旧カマドは東角に確認。いわゆる隅カマド。新カマドは南東壁の東角付近で確認。新カマドは全長（1.76）m・燃焼室内幅 0.55 m・煙道内幅 0.23 m。燃焼室は被熱し全体的に硬い。左右の袖石を確認した。燃焼室と煙道の境、ほぼ中央に支脚を確認した。燃焼室と煙道の境は

有段。煙道は長く底面は平坦。焚口部に火床面と灰層を確認。Ｈ－６と同様に煙道部の天井は崩落していない。旧カマドは全長 0.78 m・燃焼室内幅 0.28 m・煙道内幅不明。旧カマドは半分以上が調査区外のため、十分に観察できず構造は不明だが、焚口部に灰層を確認した。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から須恵器小皿や土師器土釜（１・２）などが出土。１の小皿は酸化焔焼成。　**時期**　カマド内の遺物と重複関係から 11 世紀と推定。

Ｈ－８号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ａ区。X 204・205、Y 49・50　**主軸方向**　（Ｅ－20°－Ｓ）　**規模**　東西軸（1.84）m・南北軸（2.83）m・深さ 0.41 m。竪穴西角部約 1/4 部分を調査。　**面積**　（5.36）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　硬化面は確認できず。南西壁に長軸 1.2 m、円形の緩やかなくぼみを確認。　**重複**　Ｈ－４・11・12 と重複。新旧関係はＨ－11・12→本遺構→Ｈ－４。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　床面直上から黒色土器埦や平瓦（１・２）などが出土。　**時期**　カマド内や床面直上出土の遺物と重複関係から９世紀と推定。

Ｈ－９号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ｂ区。X 200、Y 48　**主軸方向**　Ｅ－６°－Ｓ　**規模**　カマドのみ検出のため不明。　**面積**　（0.22）㎡　**覆土**　焼土・炭化物を多く含む。　**床面**　確認できず。　**重複**　Ｈ－13・17 と重複。新旧関係はＨ－17→Ｈ－13→本遺構。　**カマド**　竪穴部は調査区外のため確認できないが、東壁に位置すると推定できる。全長（0.83）m・燃焼室内幅 0.4 m・煙道内幅 0.24 m。燃焼室は被熱し、やや硬い。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は有段。煙道は長く底面は平坦。火床面と灰層は確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から土師器坏・甕の破片が少量出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から９～10 世紀と推定。

Ｈ－10 号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ａ区。X 204・205、Y 50・51　**主軸方向**　（Ｅ－22°－Ｎ）　**規模**　東西軸（3.14）m・南北軸（1.59）m・深さ 0.3 m。　**面積**　（3.57）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　東半部のほぼ全域に硬化面を確認。　**重複**　Ａ－１、Ｐ－１と重複。新旧関係は本遺構→Ａ－１・Ｐ－１。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器碗、須恵器羽釜などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成から 10 ～ 11 世紀と推定。

Ｈ－11 号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ａ区。X 204、Y 49　**主軸方向**　（Ｅ－20°－Ｎ）　**規模**　東西軸（1.03）m・南北軸不明・深さ（0.7）m。竪穴の南壁のごく一部分のみ調査。　**面積**　（0.20）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　Ｈ－８と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－８。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から土師器甕の破片が少量出土。　**時期**　重複関係から５世紀と判断。

Ｈ－12 号住居跡（Fig. 8、PL. 3）

位置　Ａ区。X 205、Y 49・50　**主軸方向**　（Ｅ－40°－Ｎ）　**規模**　東西軸（1.88）m・南北軸（2.25）m・深さ 0.6 m。　**面積**　（2.36）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　Ｈ－４・８・12・14 と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－14→Ｈ－８→Ｈ－４　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　床面直上から須恵器大甕の胴部片（１）が出土。　**時期**　床面直上出土の遺

物と重複関係から５世紀後半と推定。

Ｈ－13号住居跡（Fig. 9・10、PL. 3）

位置　Ｂ区。X 200～202、Y 47・48　**主軸方向**　Ｅ－32°－Ｎ　**規模**　東西軸（3.69）m・南北軸（4.66）m・深さ0.55 m。北側1/2部分を調査。　**面積**　（14.39）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く、Hr-FAブロックを少量含む。中層はHr-FAブロックを多く含み、遺物の包含が少ない。中層は人為的な埋め戻し土と判断した。　**床面**　壁際や付属施設の周辺を除き全体的に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－９・15・17・20・21と重複。新旧関係はＨ－21→Ｈ－20→Ｈ－15・17→本遺構→Ｈ－９。　**カマド**　北東壁のほぼ中央に確認。全長1.61 m・燃焼室内幅0.43 m、煙道内幅0.15 m。燃焼室は強く被熱し硬い。右袖前方のくぼみは袖石などの構築材跡と判断した。支脚は確認できず。燃焼室と煙道の境は有段。煙道は短く底面は平坦。燃焼室やや右よりに火床面を確認。焚口部から燃焼室にかけて灰層を確認。調査当初は、北側に旧カマドの煙道部が残存するものと判断し調査したが、重複するＨ－15・20の調査段階で再度平面プランを観察したところ、竪穴壁面を大型長方形の土坑状に掘り込んだカマド掘り方の一部であることが判明した。掘り方は掘削後に壁際を埋め戻したのち、強く被熱して赤化しており、カマド構築の中途段階で行われた“空炊き”の痕跡の可能性がある。　**貯蔵穴**　カマドの左側、竪穴部の北西角に確認。長軸1.17 m・短軸1.00 m・深さ1.00 m。　**柱穴**　２基検出し、北西と北東の主柱穴と判断した。Ｐ１は長軸0.44 m・深さ0.2 m。Ｐ２は長軸0.44 m・深さ0.16 m。　**壁周溝**　所々途切れるが、東壁と西壁の北半に確認。　**出土遺物**　床面直上から土師器高坏と小型甕（２・３）、貯蔵穴の最下層から須恵器蓋（１）などが出土。　**時期**　床面直上や貯蔵穴内の遺物と重複関係から６世紀後半と推定。

Ｈ－14号住居跡（Fig.10・11、PL. 4）

位置　Ａ区。X 205～207、Y 49～51　**主軸方向**　Ｅ－13°－Ｎ　**規模**　東西軸6.17 m・南北軸（4.87）m・深さ0.48 m。　**面積**　（25.87）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。　**床面**　南東角を除いて、全体的に硬化面を確認。　**重複**　Ｈ－３・５・６・７・12と重複。新旧関係はＨ－12→本遺構→Ｈ－６→Ｈ－３・５→Ｈ－７。　**カマド**　造り替えており、新旧２基確認した。新カマドは東壁に確認。全長（2.47）m・燃焼室内幅不明・煙道内幅（0.55）m。燃焼室は破壊され、袖部から奥壁にかけてＵ字状に掘り込まれており、鋤先痕を確認した。燃焼室付近の覆土下層には石が散乱しており、構築材に関連するものと判断した。支脚は確認できず。煙道は広く、底面は平坦。煙道部も含め全体的に破壊されているが、焚口部付近に破壊をまぬがれた火床面と灰層をわずかに確認した。旧カマドは新カマドの南側に確認した。新カマドと同形状の幅広で土坑状の煙道部をもつ。これらの煙道形状は、Ｈ－13カマドの掘り方に類似する。　**貯蔵穴**　カマドの右側、南東角に確認。長軸0.96 m・短軸0.53 m・深さ0.1 m。中央が盛り上がりくぼみが２ヶ所に分かれる。北側のくぼみには灰の堆積を確認。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　カマド内から土師器坏（１）などが出土した。覆土下層から出土した須恵器甕の頸部片（３）は、Ｈ－12床面直上出土の胴部片（Ｈ－12－１）と同一個体の可能性がある。　**時期**　カマド内の遺物と重複関係から６世紀後半と推定。

Ｈ－15号住居跡（Fig.11、PL. 4）

位置　Ｂ区。X 201・202、Y 47・48　**主軸方向**　（Ｅ－29°－Ｎ）　**規模**　東西軸（3.3）m・南北軸（4.13）m・深さ0.35 m。竪穴北東角部分を調査。　**面積**　（10.27）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層はAs-Cを多く含む。　**床面**　南東にやや広い硬化面があり、西壁際にも僅かに確認できる。　**重複**　Ｈ－13・16・20と重複。新旧関係はＨ－20→本遺構→Ｈ－13→Ｈ－16。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中層に形成された遺物集中内からは、１の土師器長胴甕などが出土。　**時期**　覆土下層出土遺物の組成

と重複関係から６世紀初頭と推定。　**備考**　図示した竪穴北隅から出土した大量の遺物片は、覆土中層に分布しており、接合率は低く、埋没過程において廃棄されたものと判断した。

Ｈ－16 号住居跡（Fig.16、PL. ４）

位置　Ｂ区。X 201・202、46・47　**主軸方向**　（Ｅ－26°－Ｎ）　**規模**　東西軸（3.92）m・南北軸（3.71）m・深さ 0.05 m。　**面積**　（11.59）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　Ｈ－15・19・20、Ｗ－２と重複。新旧関係はＨ－20・Ｗ－２→Ｈ－15→Ｈ－19→本遺構。　**カマド**　竪穴北半に火床面が確認でき、調査区外にカマドが付属するものと予想できる。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から土師器甕の破片などが出土。　**時期**　重複関係から 10 ～ 11 世紀と推定。

Ｈ－17 号住居跡（Fig. ８、PL. ４）

位置　Ｂ区。X 200・201、Y 47・48　**主軸方向**　Ｅ－46°－Ｓ　**規模**　東西軸（1.74）m・南北軸は確認できず・深さ 0.3 m。　**面積**　（1.31）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　Ｈ－９・13・21・22 と重複。新旧関係はＨ－21→本遺構→Ｈ－13・22→Ｈ－９。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器碗、須恵器羽釜、土師器土釜の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成から 10 ～ 11 世紀と推定。

Ｈ－18 号住居跡（Fig. ８、PL. ４）

位置　Ａ区。X 206・207、Y 50・51　**主軸方向**　（Ｅ－10°－Ｎ）　**規模**　東西軸 4.68 m・南北軸（1.55）m・深さ 0.35 m。竪穴西部 1/3 部分を調査。　**面積**　（5.59）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　東半部全面に硬化面を、北壁際中央にくぼみを確認。　**重複**　Ｈ－６、Ａ－１と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－６→Ａ－１。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土下層から土師器甕（１）や管玉・臼玉（２・３）などが出土した。１の甕は球胴。　**時期**　覆土下層出土遺物の組成から５世紀後半と推定。

Ｈ－19 号住居跡（Fig.11、PL. ４）

位置　Ｂ区。X 202、Y 46･47　**主軸方向**　（Ｅ－２°－Ｓ）　**規模**　東西軸（2.57）m･南北軸（1.73）m･深さ 0.34 m。竪穴西側 1/2 部分を調査。　**面積**　（4.71）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　Ｈ－16・20、Ｗ－２と重複。新旧関係はＨ－20・Ｗ－２→本遺構→Ｈ－16。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土下層から須恵器高台付坏や皿（１・２）などが出土。　**時期**　覆土下層出土遺物の組成と重複関係から９世紀後半と推定。

Ｈ－20 号住居跡（Fig.12、PL. ５）

位置　Ｂ区。X 201・202、Y 47・48　**主軸方向**　（Ｅ－20°－Ｎ）　**規模**　東西軸（4.01）m・南北軸 4.99 m・深さ 0.66 m。竪穴西側 1/2 部分を調査。　**面積**　（16.67）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とし、上層は As-C を多く含む。　**床面**　竪穴中央部を中心に硬化面を確認。西角部分にもまだらに確認した。　**重複**　Ｈ－13・15・16・19 と重複。新旧関係は本遺構→Ｈ－15→Ｈ－19→Ｈ－13→Ｈ－16。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**ピット**　竪穴西壁際で確認したＰ１は出入り口ピットの可能性がある。　**壁周溝**　確認できず。　**出土遺物**　覆土下層～床面直上から土師器坏（１～４）などが出土。　**時期**　覆土下層～床面直上の遺物と重複関係から５世紀後半と推定。

Ｈ－21 号住居跡（Fig.13、PL. ５）

位置　B区。X 200・201、Y 46～48　**主軸方向**　（E－42°－S）　**規模**　東西軸（4.87）m・南北軸（3.06）m・深さ0.13 m。竪穴南西側1/3部分を調査。　**面積**　（14.53）㎡　**覆土**　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。　**床面**　竪穴中央部に硬化面を確認。　**重複**　H－9・13・17・22、W－1、D－7と重複。新旧関係は本遺構→H－17→H－13・22→H－9→W－1・D－7。　**カマド**　確認できず。　**貯蔵穴**　確認できず。　**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　床面直上から樽式の壺（1・2）が出土。　**時期**　床面直上の遺物と重複関係から弥生時代後期と推定。

H－22号住居跡（Fig.13、PL. 5）

位置　B区。X 200、Y 47　**主軸方向**　E－28°－N　**規模**　東西軸（1.00）m・南北軸（2.04）m・深さ0.50 m。南東角の一部分のみ調査。　**面積**　（1.08）㎡　覆土　As-C・焼土・炭化物粒を含む黒褐色土を基調とする。上層はHr-FAブロックを多く含み、中層はAs-Cを多く含む。　**床面**　硬化面は確認できず。　**重複**　H－17・21と重複。新旧関係はH－21→H－17→本遺構。　**カマド**　東壁に確認。全長（0.39）m・燃焼室内幅（0.3）m・煙道内幅不明m。燃焼室は被熱し、やや硬い。支脚は確認できず。煙道は確認できず。火床面と灰層は確認できず。　**貯蔵穴**　竪穴部の南東角に確認。長軸（0.65）m・短軸（0.25）m・深さ0.64 m。**柱穴**　確認できず。　**壁周溝**　確認できず。　**掘り方**　確認できず。　**出土遺物**　覆土中から土師器坏（内斜口縁坏）の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から6世紀初頭と推定。

2．道路状遺構

A－1号道路状遺構（Fig.13）

位置　A区。X 204～208、Y 51　**主軸方向**　E－2°－S　**規模**　長さ（17.54）m・幅（2.62）m。調査区外のため、南側の立ち上がりは確認できず。　**形状**　断面逆台形で大型の溝状。上層に硬化面を持つ。走向は直線的。　**重複**　H－2・10・18と重複。新旧関係はH－18→H－10→H－2→本遺構。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土を基調とする。　**硬化面**　北側の壁際を除いて、全体的に硬化面を確認。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器壺や碗の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から中世以降と推定。

3．溝

W－1号溝（Fig.13）

位置　B区。X 201、Y 45～47　**主軸方向**　N－6°－E　**規模**　長さ（6.82）m・上幅0.64 m・下幅0.47 m・深さ0.13 m　**形状等**　南北に走向する。断面は弧状を呈する。　**重複**　H－21、D－3・9・12と重複。新旧関係はH－21→D－12→本遺構→D－3・9。　**覆土**　As-Bを含む黒褐色土を基調とする。　**出土遺物**　覆土中から灰釉陶器碗の破片などが出土。　**時期**　覆土出土遺物の組成と重複関係から中世以降と推定。

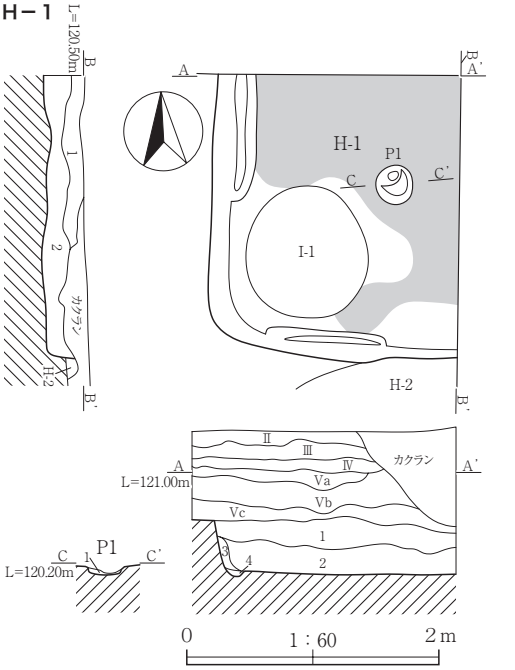
W－2号溝（Fig.13）

位置　B区。X 201、Y 46　**主軸方向**　S－45°－E　**規模**　長さ（3.42）m・上幅0.51 m・下幅0.31 m・深さ0.2 m　**形状等**　北西から南東に走向する。断面は弧状を呈する。　**重複**　H－16・19、W－1、D－9と重複。新旧関係は本遺構→H－19→H－16→W－1→D－9。　**覆土**　As-Cを含む黒褐色土を基調とする。　**出土遺物**　覆土中から土師器坏（内斜口縁坏）の破片などが出土。　**時期**　重複関係から6世紀初頭と推定。

4．井戸、土坑、ピット（Fig.13）

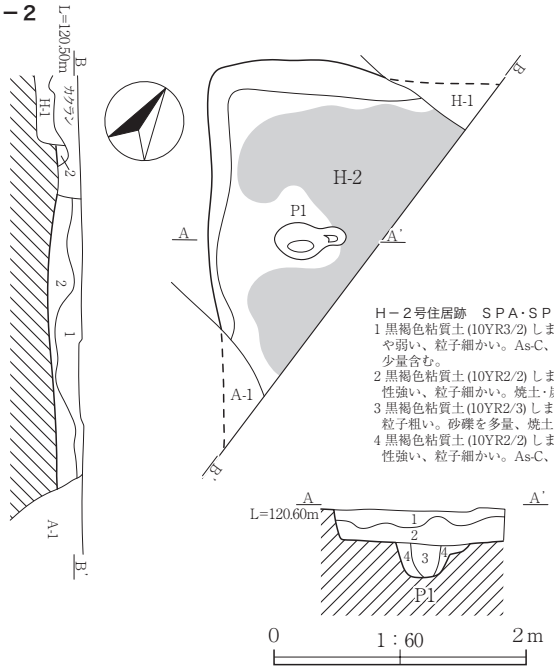
井戸を1基、土坑を13基、ピットを2基検出した。井戸は湧水したため底面まで調査できず。D－1・3～10は覆土にAs-Bを含むことから中世以降の土坑と判断した。小片の為図示に至らないが、D－7からは緑釉陶器の破片が出土した。D－13は、調査段階ではH－14に伴う焼土跡と考えていたが、重複する各遺構の平・断面、遺物出土状況を点検したところ、炭化材、焼土塊、焼成粘土塊（D－13－焼成粘土塊）を多量に含む土坑と判断した。調査時に平面的には確認できなかったが、炭化物・焼成粘土塊の分布、断面から範囲を推定した。各遺構の計測値については、Tab. 2に示す。

H－1



H－１号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C 少量含む。焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまりやや強い､粘性強い､粒子細かい。焼土を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土を僅かに含む。

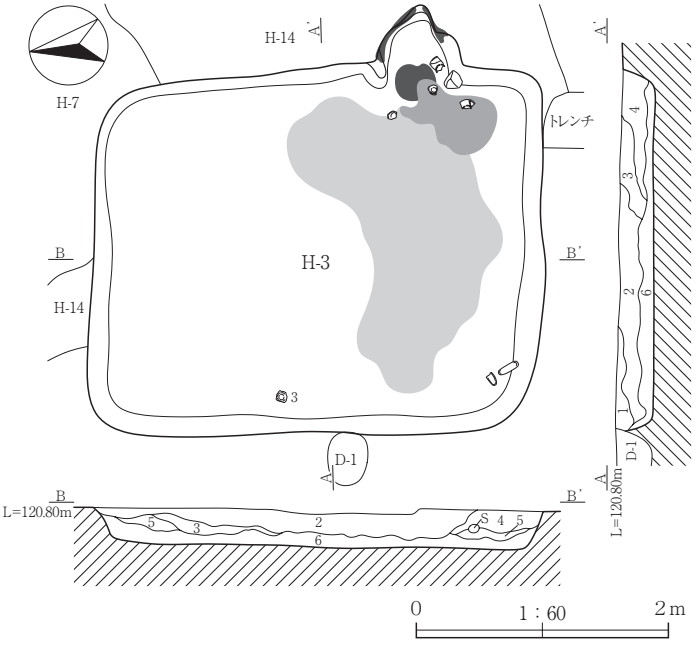
H－2



H－２号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土･炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり弱い､粘性強い、粒子粗い。砂礫を多量、焼土を少量含む。
4 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土を少量含む。

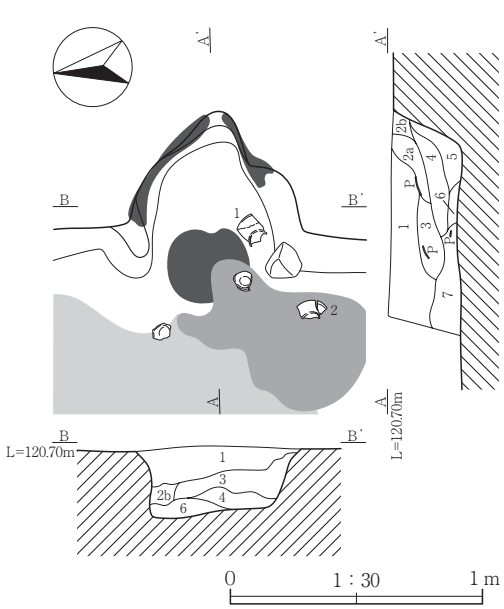
H－１号住居跡　ＳＰＣ（Ｐ１）
1 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。

H－3



H－３号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。炭化物・As-C 軽石を少量含む。
2 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土を微量含む。炭化物・As-C を少量含む。
3 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土をやや少量含む。炭化物・As-C を少量含む。
4 黒褐色粘質土(7.5YR3/2) しまりやや強い､粘性やや弱い､粒子やや細かい。炭化物を微量含む。As-C をやや少量含む。
5 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・炭化物・As-C を少量含む。
6 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子細かい。炭化物を少量含む。As-C を微量含む。

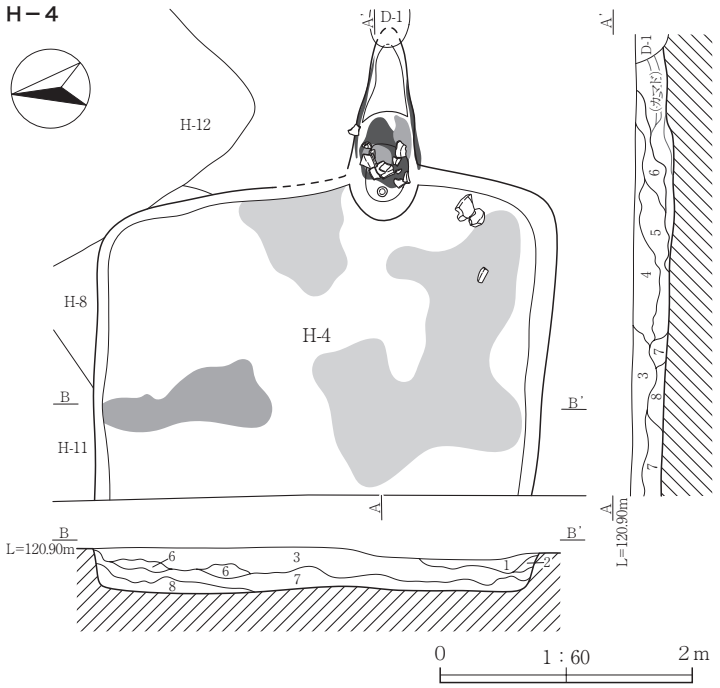
H－3カマド



H－３号住居跡カマド　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物をやや少量含む。粘土・As-C を微量含む。
2 にぶい赤褐色粘質土(2.5YR4/4) しまり強い､粘性弱い､粒子粗い。焼土を多量含む。b は a に比べ炭化物多い。
3 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。灰・As-C を微量含む。
4 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・As-C を微量含む。炭化物を少量含む。灰をやや少量含む。
5 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。炭化物を微量含む。As-C をやや少量含む。
6 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) しまり弱い、粘性弱い、粒子細かい。灰を多量含む。
7 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物・砂岩片を微量含む。

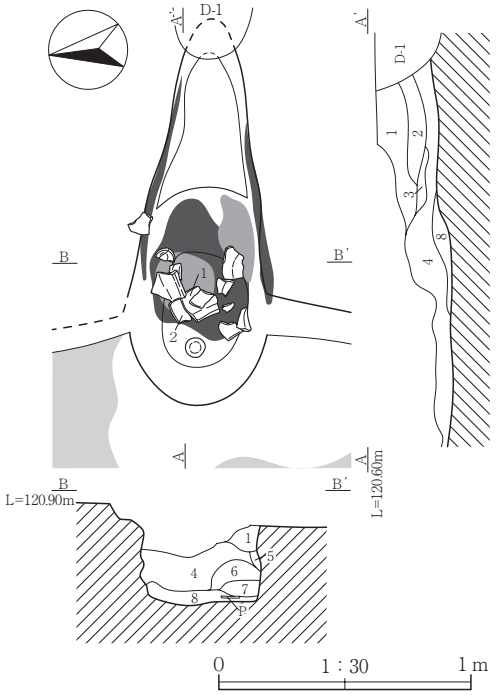
Fig.5　H－１～３号住居跡

H－4



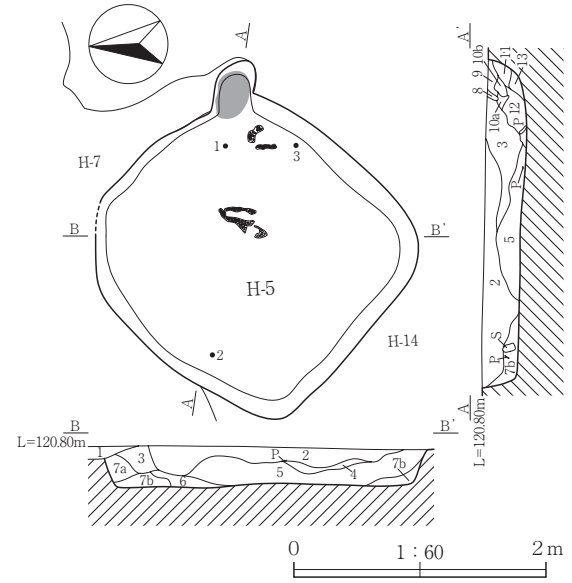
H－4号住居跡　SPA・SPB
1 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土を微量含む。粘土を少量含む。
2 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。クロボク土を少量含む。
3 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。炭化物を微量含む。As-C を少量含む。
4 暗褐色粘質土(10YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物・As-C をやや少量含む。総社砂層ブロックを少量含む。
5 暗褐色粘質土(10YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土を微量含む。炭化物・As-C を少量含む。
6 黒褐色砂質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。炭化物を少量含む。粘土を微量含む。
7 黒色粘質土(7.5YR2/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物・As-C を微量含む。粘土を少量含む。
8 黒色粘質土(7.5YR2/1) しまり弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物・クロボク土を少量含む。

H－4カマド



H－4号住居跡カマド　SPA・SPB
1 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い。粒子粗い。焼土・As-C をやや少量含む。
2 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土をやや多量含む。As-C をやや少量含む。
3 明赤褐色粘質土(2.5YR5/6) しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土を多量含む。
4 灰赤色粘質土(2.5YR4/2) しまり弱い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物・粘土をやや少量含む。
5 明赤褐色粘質土(2.5YR5/6) しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土をやや多量含む。
6 暗褐色粘質土(10YR3/4) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。粘土をやや多量含む。
7 灰黄褐色粘質土(10YR5/2) しまりやや弱い、粘性やや強い、粒子やや細かい。炭化物を少量含む。灰をやや多量含む。
8 褐灰色粘質土(7.5YR4/1) しまり弱い、粘性弱い、粒子細かい。灰を多量含む。

H－5



H－5号住居跡　SPA・SPB
1 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物・As-C を少量含む。
2 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物をやや少量含む。As-C を少量含む。
3 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物をやや少量含む。焼土・As-C を少量含む。
4 暗褐色粘質土(7.5YR3/4) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物・焼土をやや少量含む。
5 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。炭化物・As-C を少量含む。
6 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子粗い。As-C・総社砂層ブロックを少量含む。
7 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。クロボク土をやや少量含む。
8 明赤褐色粘質土(2.5YR5/6) しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。焼土を多量含む。
9 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性弱い、粒子粗い。炭化物を微量含む。As-C を少量含む。
10 褐色粘質土(7.5YR4/3) しまりやや強い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土・粘土を少量含む。b は a より焼土多い。
11 にぶい褐色粘質土(7.5YR5/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土をやや少量含む。
12 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土・炭化物をやや多量含む。
13 褐灰色砂質土(7.5YR4/1) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。灰を多量含む。

H－6

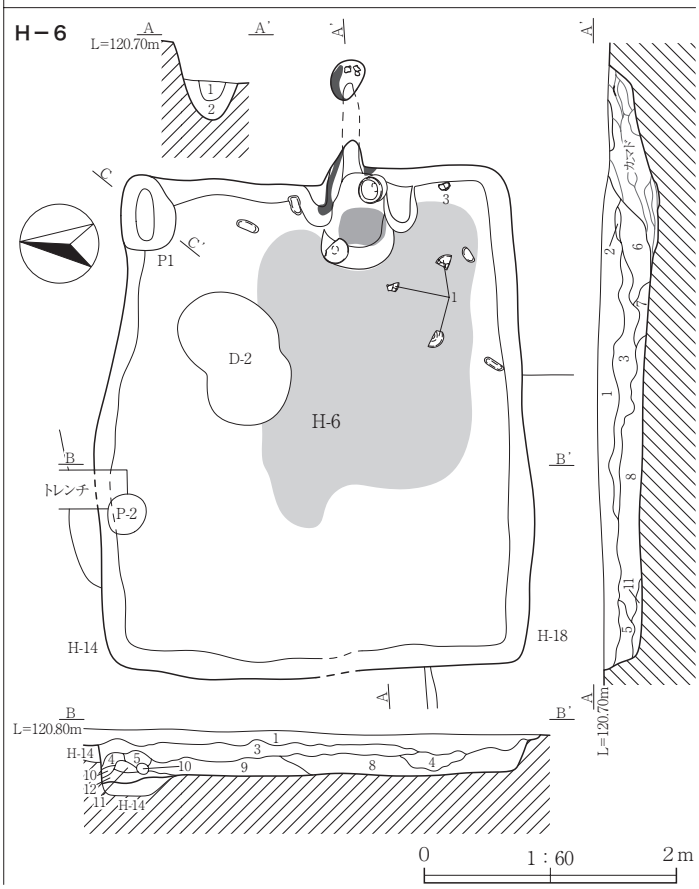
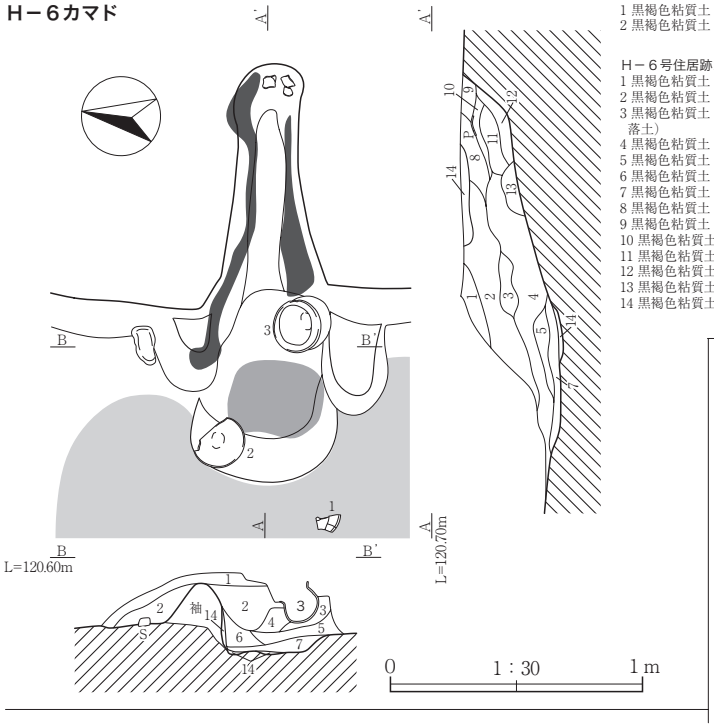


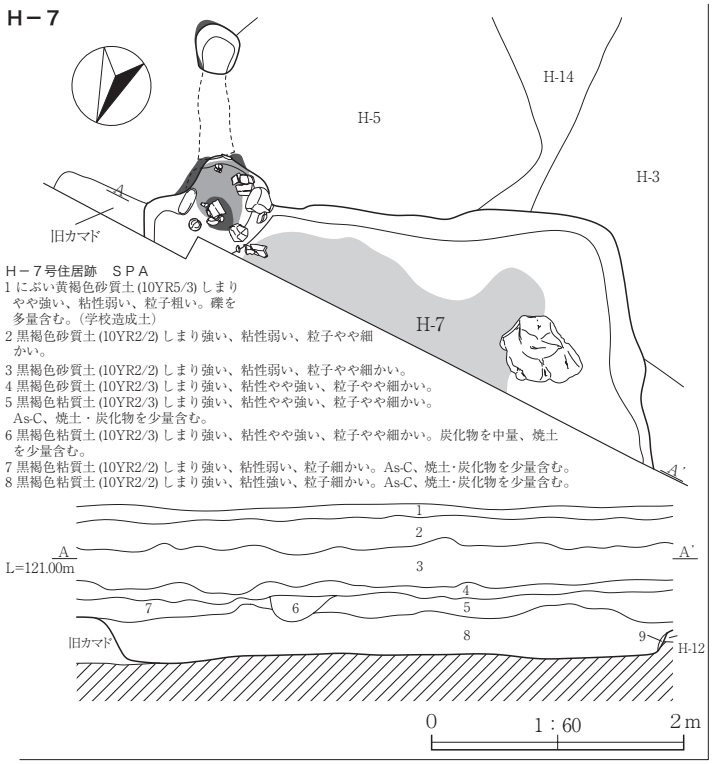
Fig.6　H－4～6号住居跡

Ｈ－６号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C をやや多量含む。
2 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。粘土を少量含む。As-C をやや少量含む。
3 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土･炭化物を少量含む。As-C をやや少量含む。
4 黒色粘質土(10YR2/1) しまりやや弱、粘性やや弱、粒子やや粗い。As-C を多量含む。
5 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-C・クロボク土をやや多量含む。
6 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物・As-C をやや少量含む。
7 暗褐色粘質土(7.5YR3/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物・粘土をやや少量含む。
8 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い､粘性やや弱い､粒子やや細かい。焼土･炭化物を少量含む。As-C を微量含む。
9 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い､粘性やや弱い､粒子やや細かい。炭化物･As-C を微量含む。
10 黒色粘質土(10YR2/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-C を多量含む。４層と類似する。
11 黒色粘質土(10YR2/1) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子細かい。クロボク土を多量含む。
12 黒褐色粘質土(7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C を微量含む。

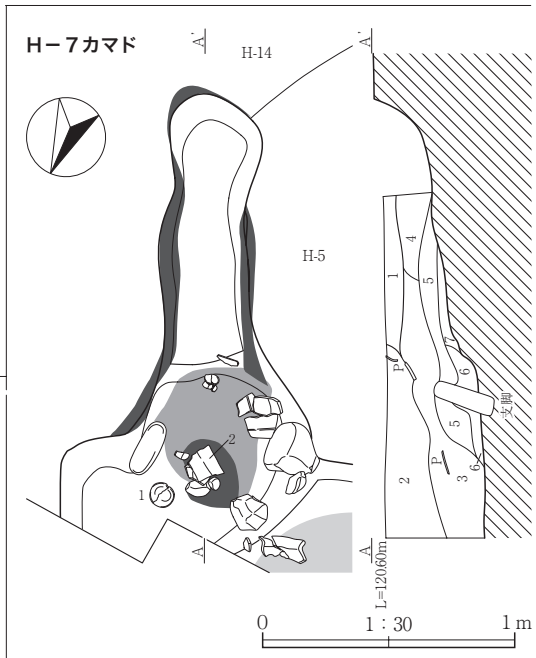
Ｈ－６号住居跡　ＳＰＣ(Ｐ１)
1 黒褐色粘質土 10YR2/2 しまりやや強い、粘性強い、粒子やや粗い。焼土・炭片、砂礫を少量含む。
2 黒褐色粘質土 10YR2/3 しまり、粘性、粒子。砂礫を少量含む。

Ｈ－６号住居跡カマド　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 10YR2/3 しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C を少量含む。
2 黒褐色粘質土 10YR2/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C、焼土・炭片を少量含む。
3 黒褐色粘質土 10YR2/3 しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土を多量含む。(天井崩落土)
4 黒褐色粘質土 10YR2/2 しまりやや強い、粘性強い、粒子細かい。焼土を少量含む。
5 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり弱い、粘性強い、粒子細かい。
6 黒褐色粘質土 10YR2/2 しまり弱い、粘性強い、粒子細かい。灰を中量含む。
7 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい
8 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
9 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
10 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
11 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
12 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
13 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。
14 黒褐色粘質土 10YR3/2 しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。

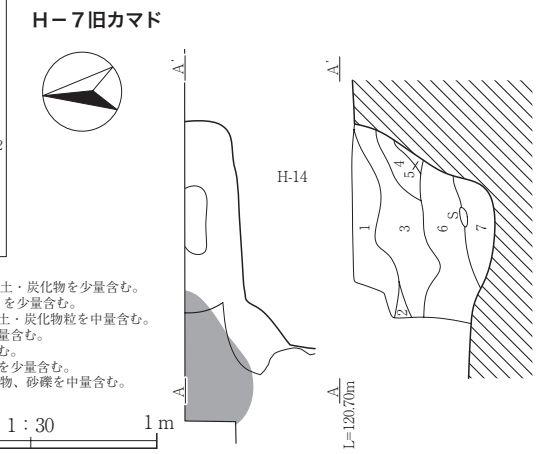




Ｈ－７号住居跡　ＳＰＡ
1 にぶい黄褐色砂質土(10YR5/3) しまりやや強い、粘性弱い、粒子粗い。礫を多量含む。(学校造成土)
2 黒褐色砂質土(10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。
3 黒褐色砂質土(10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。
4 黒褐色砂質土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。
5 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
6 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。炭化物を中量、焼土を少量含む。
7 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。As-C、焼土･炭化物を少量含む。
8 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土･炭化物を少量含む。



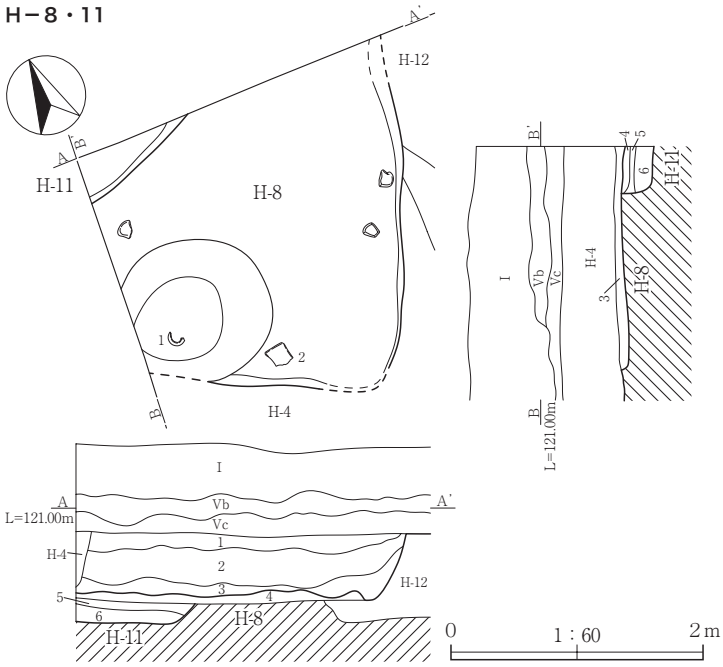
Ｈ－７号住居跡カマド　ＳＰＡ
1 暗褐色粘質土(10YR3/3) しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。被熱により硬く焼けている。
2 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや強い､粘性強い､粒子やや細かい。焼土を少量含む。
4 黒褐色粘質土(10YR3/2) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土を中量含む。
5 黒褐色粘質土(10YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや強い、粒子細かい。下部に焼土を少量含む。
6 黒褐色粘質土(10YR3/1) しまり弱い、粘性強い、粒子細かい。灰を中量含む。
7 黒褐色粘質土(10YR3/1) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。砂礫を中量含む。



Ｈ－７号住居跡旧カマド　ＳＰＡ
1 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
2 暗褐色粘質土(10YR3/4) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C を少量含む。
3 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物粒を中量含む。
4 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや粗い。炭を少量含む。
5 黒褐色粘質土(10YR2/2) しまり弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土を中量含む。
6 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。
7 極暗褐色粘質土(7.5YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物、砂礫を中量含む。

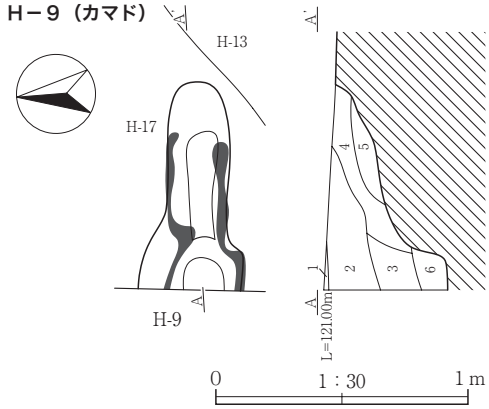
Fig.7　Ｈ－６・７号住居跡

H－8・11



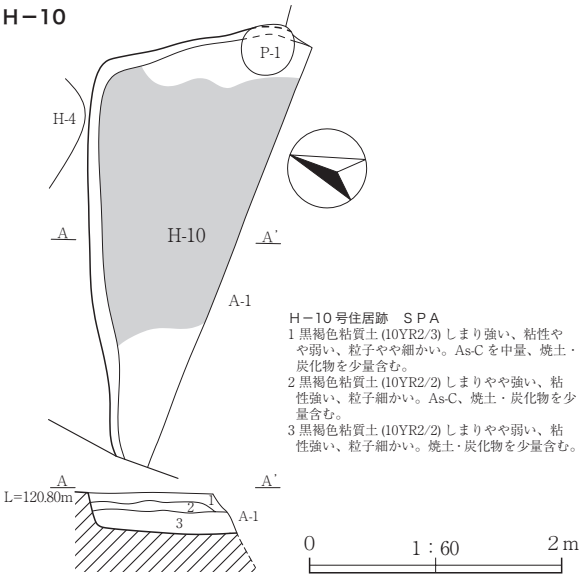
H－8・11 号住居跡　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-C を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物粒を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量、As-C を微量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を微量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量、As-C を微量含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。

H－9（カマド）



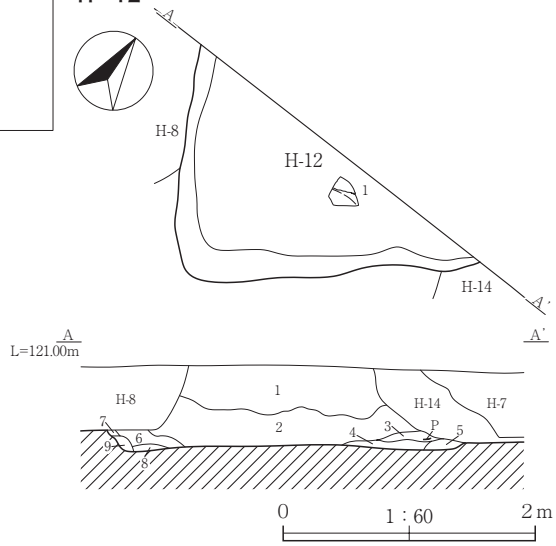
H－9 号住居跡（カマド）　ＳＰＡ
1 褐灰色砂質土 (10YR4/1) しまり非常に強い、粘性弱い、粒子細かい。底面に鉄分の沈着あり。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまり弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土を少量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土 (5YR4/8) を中量含む。（天井崩落土）
6 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり弱い、粘性強い、粒子やや粗い。砂を少量含む。

H－10



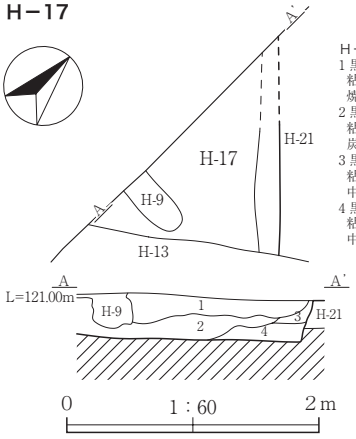
H－10 号住居跡　ＳＰＡ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。

H－12



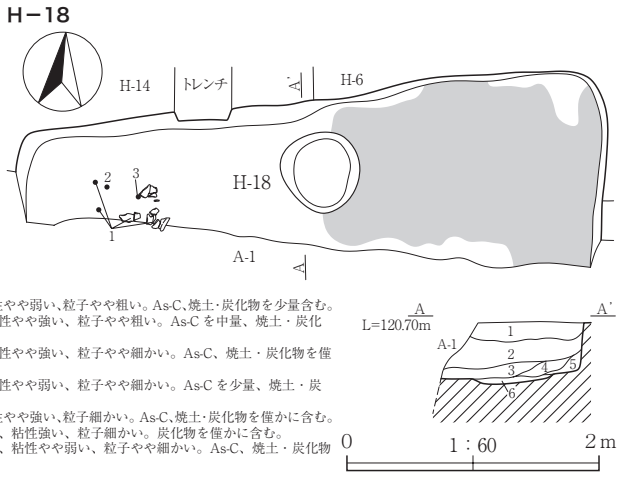
H－12 号住居跡　ＳＰＡ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を少量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。炭化物を少量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を僅かに含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C を少量、焼土・炭化物を僅かに含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。砂礫を少量含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子粗い。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。

H－17



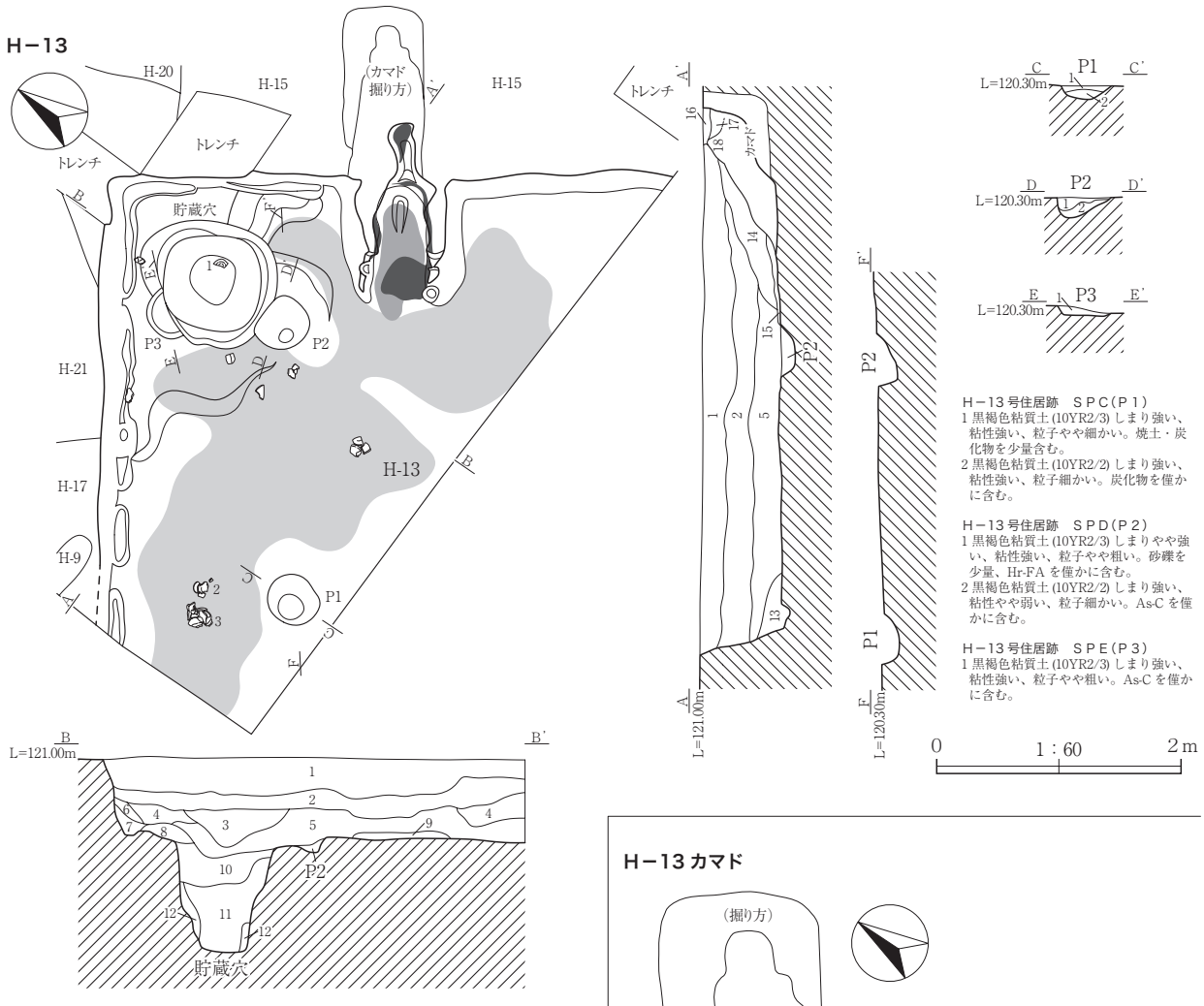
H－17 号住居跡　ＳＰＡ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-C を中量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C を中量含む。

H－18



H－18 号住居跡　ＳＰＡ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を少量、焼土・炭化物を僅かに含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。炭化物を僅かに含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。

Fig. 8　H－8～12・17・18 号住居跡

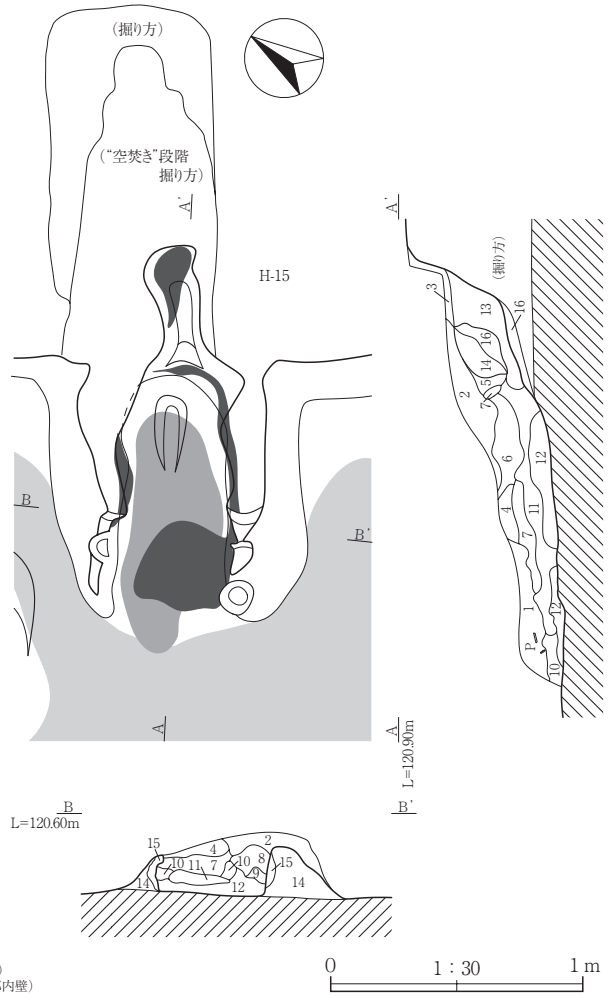


H－13 号住居跡　ＳＰＣ（Ｐ１）
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。炭化物を僅かに含む。

H－13 号住居跡　ＳＰＤ（Ｐ２）
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや粗い。砂礫を少量、Hr-FA を僅かに含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C を僅かに含む。

H－13 号住居跡　ＳＰＥ（Ｐ３）
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。As-C を僅かに含む。

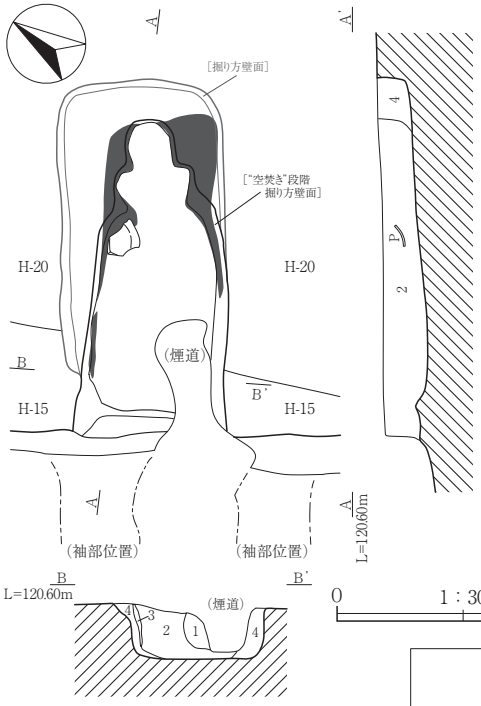
H－13 号住居跡　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子細かい。Hr-FA ブロック、As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。Hr-FA、As-C を少量、砂礫を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子細かい。Hr-FA ブロックを少量、As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
5 黒褐色粘質土(10YR2/3) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや粗い。砂礫を少量、Hr-FA を僅かに含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子細かい。Hr-FA、焼土・炭化物を少量含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。砂礫を少量含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。Hr-FA を僅かに含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。焼土・炭化物を中量含む。（カマド崩落土）
10 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや粗い。Hr-FA ブロックを少量含む。
11 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり弱い、粘性強い、粒子やや粗い。砂礫を少量含む。
12 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり弱い、粘性強い、粒子やや粗い。11 層に鉄分が沈着。
13 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
14 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
15 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を中量含む。
16 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を少量含む。
17 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を中量含む。
18 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物ブロックを中量含む。



H－13 号住居跡カマド　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土・粘土をやや多量含む。
2 褐灰色粘質土 (7.5YR4/1) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。炭化物・As-C を少量含む。
3 暗褐色砂質土 (7.5YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。焼土やや多量・炭化物を少量含む。
4 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや強い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土をやや少量含む。炭化物を少量含む。
5 褐色灰色粘質土 (7.5YR4/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。粘土をやや多量含む。小礫を微量含む。
6 黒色粘質土 (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。炭化物を少量含む。As-C を微量含む。
7 にぶい褐色粘質土 (5YR6/4) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子粗い。焼土をやや多量含む。
8 にぶい赤褐色粘質土 (2.5YR5/4) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子粗い。焼土をやや多量含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土をやや少量含む。
10 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土を微量含む。炭化物・灰をやや少量含む。
11 黒褐色粘質土 (10YR3/1) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土をやや多量含む。9 層に類似する。
12 黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・炭化物を微量含む。灰をやや多量含む。
13 黒色粘質土 (10YR2/1) しまり弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土・炭化物・灰を少量含む。
14 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。白色粘土を多量含む。小礫を微量含む。
15 明赤褐色粘質土 (2.5YR5/6) しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土を多量含む。（被熱した燃焼室内壁）
16 にぶい橙色粘質土 (5YR6/4) しまりやや強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土を多量含む。（被熱した煙道部内壁）

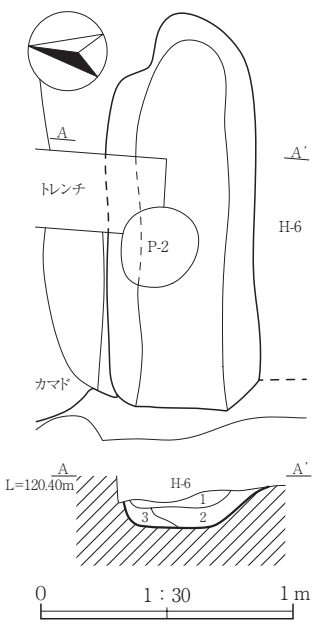
Fig. 9　H－13 号住居跡

H－13 カマド掘り方



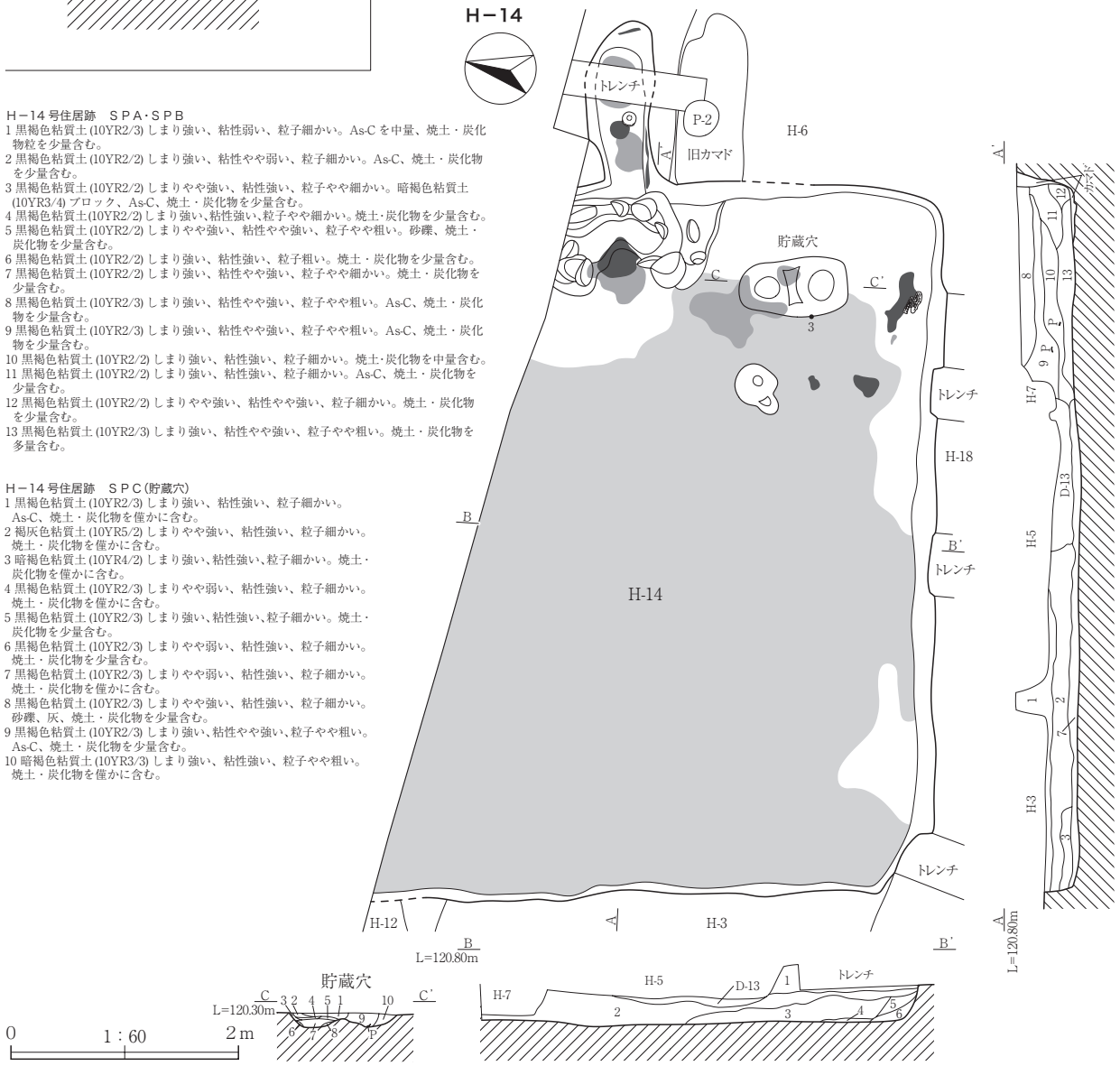
H－13 号住居跡カマド掘り方　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 にぶい橙色粘質土 (5YR6/4) しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土を多量含む。H-13 カマド SPA・SPB の 16 層と同じ。（被熱した煙道部内壁）
2 暗赤灰色粘質土 (10R3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土ブロックをやや多量含む。（掘り方充填土。）
3 明赤褐色粘質土 (2.5YR5/6) しまり非常に強い、粘性弱い、粒子粗い。焼土を多量含む。（顕著に被熱した掘り方壁面。カマド構築段階の"空焚き"痕跡か。）
4 暗灰黄色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。Hr-FA ブロックをやや多量含む。（埋め戻し土。掘り方充填土。）

H－14 旧カマド



H－14 号住居跡旧カマド　ＳＰＡ
1 にぶい赤褐色粘質土 (5YR5/4) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・粘土やや多量。
2 にぶい褐色粘質土 (7.5YR5/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物・灰を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土をやや少量含む。灰をやや多量含む。

H－14

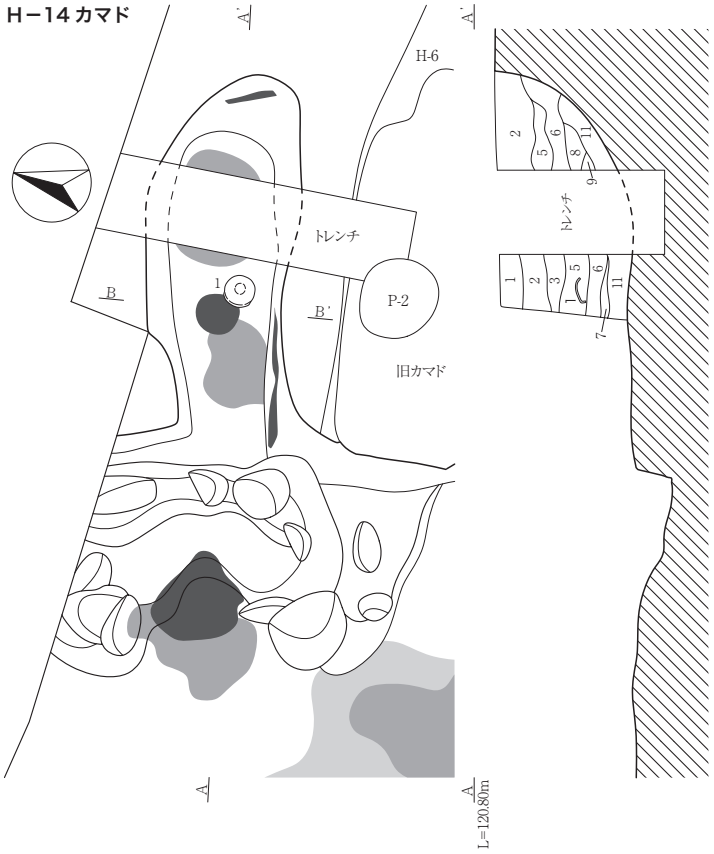


H－14 号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。As-C を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子やや細かい。暗褐色粘質土 (10YR3/4) ブロック、As-C、焼土・炭化物を少量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。砂礫、焼土・炭化物を少量含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子粗い。焼土・炭化物を少量含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
10 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土･炭化物を中量含む。
11 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
12 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや強い、粘性やや強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。
13 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を多量含む。

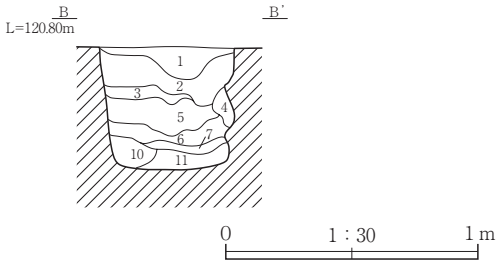
H－14 号住居跡　ＳＰＣ（貯蔵穴）
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
2 褐灰色粘質土 (10YR5/2) しまりやや強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を僅かに含む。
3 暗褐色粘質土 (10YR4/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を僅かに含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を僅かに含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性強い、粒子細かい。砂礫、灰、焼土・炭化物を少量含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
10 暗褐色粘質土 (10YR3/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。焼土・炭化物を僅かに含む。

Fig.10　H－13・14 号住居跡

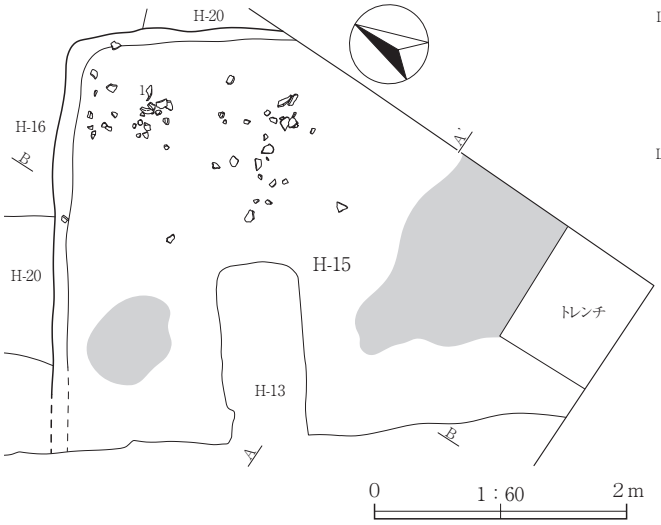
H－14 カマド

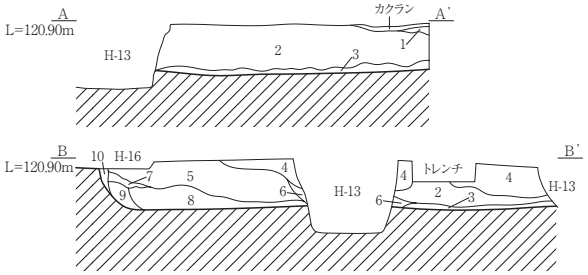


H－14 号住居跡カマド　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 暗褐色粘質土 (7.5YR3/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。炭化物を少量含む。As-C をやや少量含む。
2 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物やや少量。As-C をやや多量含む。
3 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土を微量含む。炭化物・As-C を少量含む。
4 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまり弱い、粘性弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物をやや少量含む。
5 褐灰色粘質土 (7.5YR4/1) しまり弱い、粘性やや弱い、粒子粗い。焼土・灰を多量含む。炭化物をやや少量含む。
6 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1) しまり弱い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土を少量含む。炭化物を微量含む。灰を多量含む。
7 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性弱い、粒子粗い。炭化物やや少量。粘土少量。
8 褐色粘質土 (7.5YR4/6) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土をやや少量含む。
9 にぶい赤褐色粘質土 (5YR5/4)　しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土・粘土やや多量。
10 にぶい褐色粘質土 (7 5YR5/3) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土・炭化物・灰を少量含む。
11 黒褐色粘質土 (7.5YR3/1) しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。焼土をやや少量含む。灰をやや多量含む。



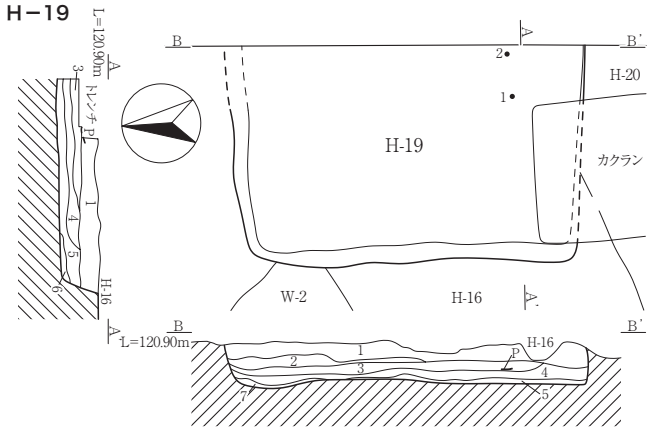
H－15





H－15 号住居跡　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。As-C を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C を中量、焼土・炭化物を少量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。砂礫、As-C、焼土・炭化物を少量含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土ブロック、As-C を僅かに含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C、炭化物を少量含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。砂礫、As-C を少量含む。
10 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を少量含む。

H－19



H－19 号住居跡　ＳＰＡ・ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物粒を中量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物粒を僅かに含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物粒を含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物粒を少量含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。

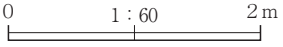
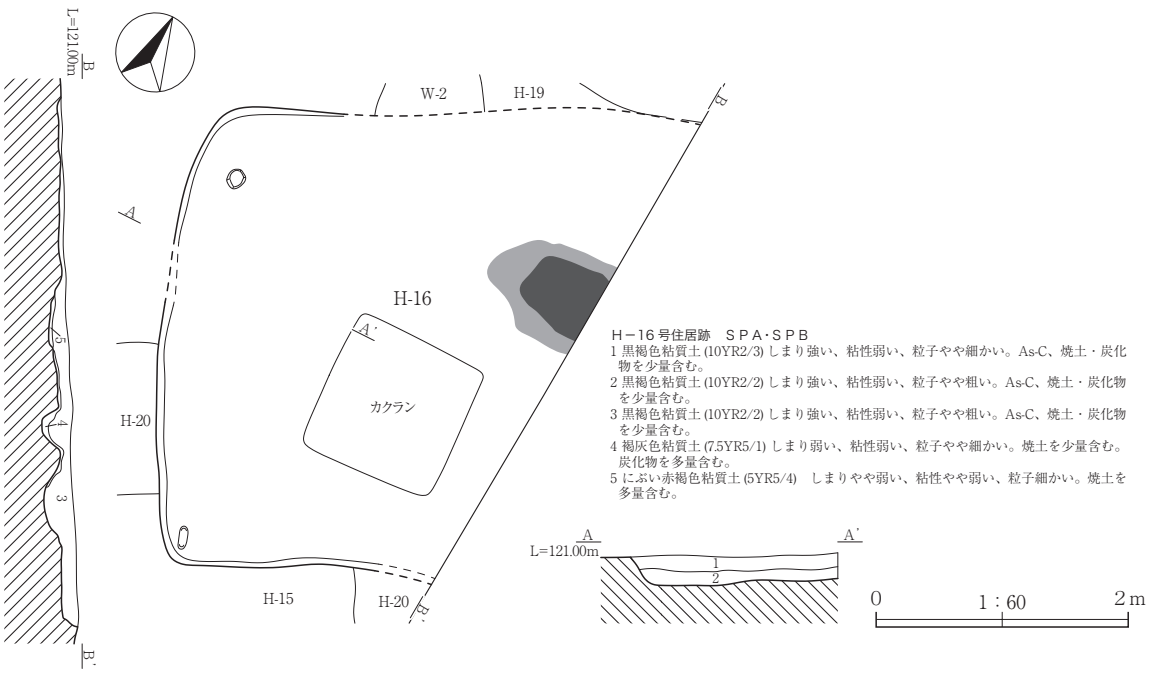


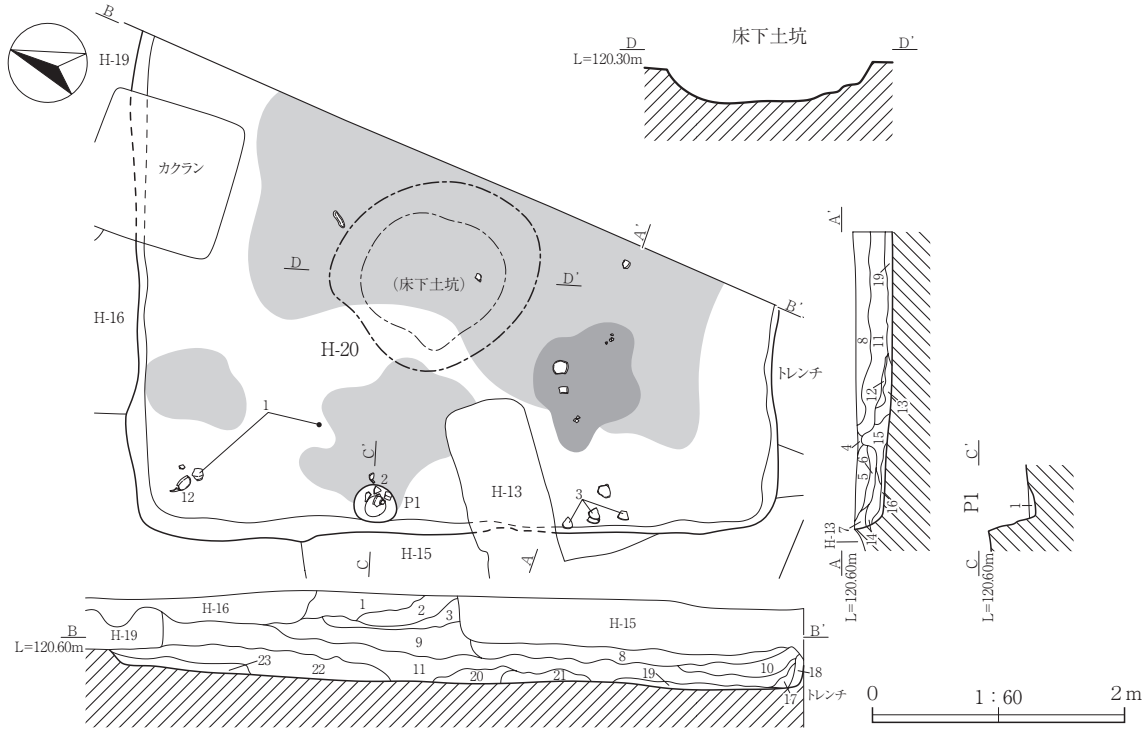
Fig.11　H－14・15・19 号住居跡

H－16



H－16 号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C、焼土・炭化物を少量含む。
4 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1) しまり弱い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土を少量含む。炭化物を多量含む。
5 にぶい赤褐色粘質土 (5YR5/4)　しまりやや弱い、粘性やや弱い、粒子細かい。焼土を多量含む。

H－20

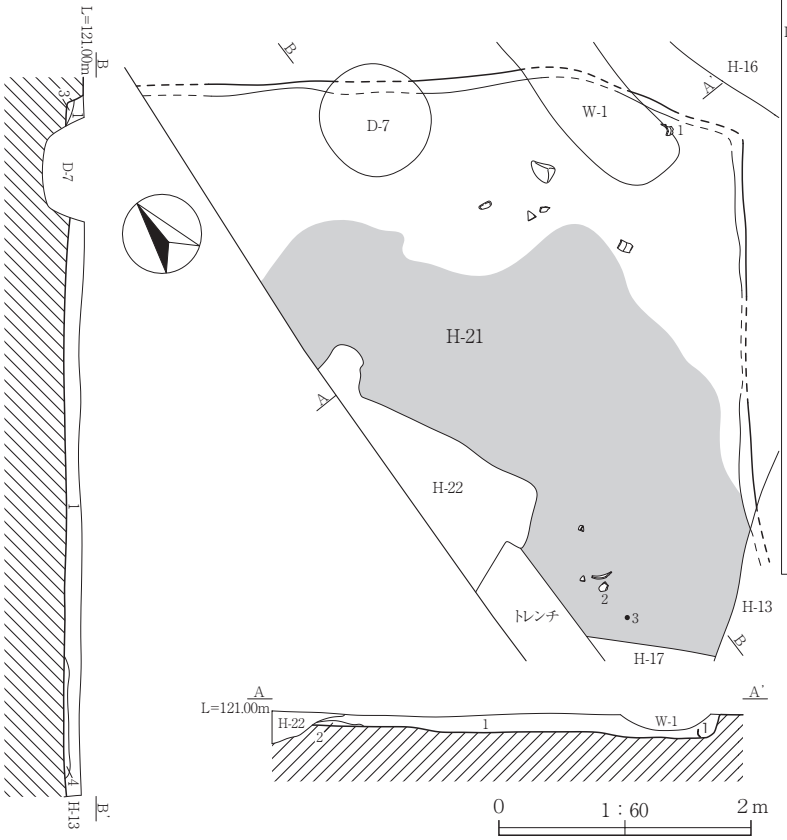


H－20 号住居跡　ＳＰＡ･ＳＰＢ
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C を少量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。
3 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土・炭化物粒を少量、As-C を僅かに含む。
5 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-C を中量、焼土・炭化物粒を僅かに含む。
6 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-C を少量、焼土・炭化物粒を僅かに含む。
7 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。As-C を僅かに含む。
8 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C を中量、焼土・炭化物粒を少量含む。
9 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物粒を少量含む。
10 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや強い、粘性強い、粒子粗い。焼土・炭化物粒を少量、As-C を僅かに含む。
11 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物粒を少量含む。
12 黒色粘質土 (10YR2/1) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。炭化物を多量に含む。
13 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物粒を少量含む。
14 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまりやや弱い、粘性強い、粒子細かい。As-C を僅かに含む。
15 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子やや細かい。炭化物・焼土・As-C を中量含む。
16 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまりやや弱い、粘性強い、粒子やや粗い。As-C を少量含む。
17 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。As-C を僅かに含む。
18 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。As-C を少量含む。
19 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物粒を少量含む。
20 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。暗褐色粘土ブロック (10YR3/3) 少量、As-C、焼土・炭化物粒を僅かに含む。
21 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。暗褐色粘土ブロック (10YR3/3)、As-C、焼土・炭化物粒を僅かに含む。
22 黒褐色粘質土 (10YR2/2) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。19 層ブロックを少量含む。
23 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子細かい。砂礫を少量含む。

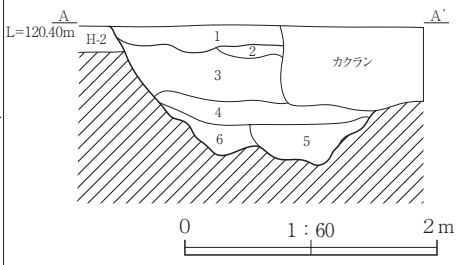
H－20 号住居跡　ＳＰＣ（Ｐ１）
1 黒褐色粘質土 (10YR2/3) しまり強い、粘性強い、粒子やや粗い。暗褐色粘土ブロック・As-C・炭化物粒を僅かに含む。

Fig.12　H－16・20 号住居跡

H－21



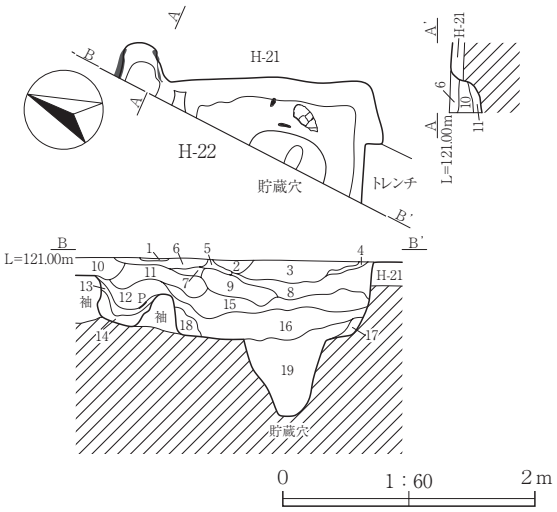
A－1



A－1号住居跡　SPA
1 暗褐色砂質土(10YR3/4)しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-Bを中量、焼土・炭化物、遺物片を少量含む。
2 黒褐色砂質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。As-Bを中量、焼土・炭化物を少量含む。(道路硬化面)
3 黒褐色砂質土(10YR2/3)しまりやや強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-Bを中量、焼土・炭化物を少量含む。
4 黒褐色砂質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。As-Bを中量、焼土・炭化物を僅かに含む。
5 暗褐色砂質土(10YR3/3)しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。砂礫を中量、20～30mm程度の礫を少量含む。
6 暗褐色砂質土(10YR3/3)しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。砂礫を中量含む。
7 暗褐色砂質土(10YR3/4)しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。

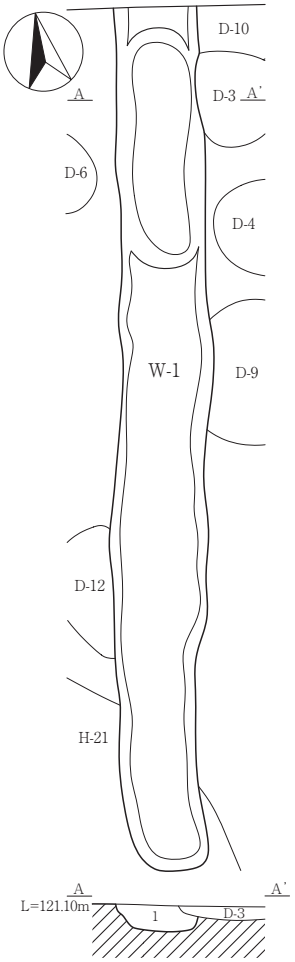
H－21号住居跡　SPA・SPB
1 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-Cを多量、焼土・炭化物を少量含む。
2 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
3 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまりやや強い、粘性やや強い、粒子粗い。砂礫を少量含む。
4 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-Cを僅かに含む。

H－22

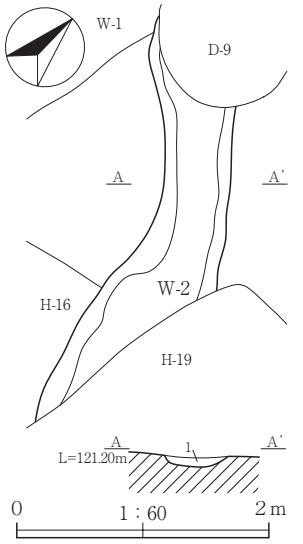


H－22号住居跡　SPA・SPB
1 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。Hr-FAブロックを多量含む。
2 暗褐色粘質土(10YR4/3)しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。砂礫を多量含む。
3 暗褐色粘質土(10YR4/3)しまり強い、粘性弱い、粒子粗い。底面にHr-FAブロックを中量含む。
4 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。Hr-FAブロックを多量含む。
5 暗褐色粘質土(10YR3/4)しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。Hr-FAブロックを多量含む。
6 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子細かい。As-Cを少量含む。
7 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子やや細かい。焼土ブロックを僅かに含む。
8 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性弱い、粒子やや粗い。As-Cを中量含む。
9 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや粗い。As-Cを少量含む。
10 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量、As-Cを僅かに含む。
11 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや強い、粒子やや細かい。焼土・炭化物を少量、As-Cを僅かに含む。
12 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土を中量含む。
13 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性やや強い、粒子やや粗い。固い焼土を中量含む。(天井崩落土)
14 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土・炭化物を少量含む。
15 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまり強い、粘性強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
16 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまりやや強い、粘性強い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物を僅かに含む。
17 黒褐色粘質土(10YR2/3)しまりやや弱い、粘性強い、粒子やや細かい。炭化物を少量含む。
18 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまり強い、粘性強い、粒子細かい。焼土ブロックを少量含む。
19 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまりやや弱い、粘性強い、粒子やや細かい。砂礫、焼土・炭化物を少量含む。

W－1



W－2



W－2号溝跡　SPA
1 黒褐色粘質土(10YR2/2)しまり強い、粘性やや弱い、粒子やや細かい。As-C、焼土・炭化物少量含む。

W－1号溝跡　SPA
1 黒褐色砂質土(10YR2/2)しまり強い、粘性やや強い、粒子細かい。As-Bを中量含む。

Fig.13　H－21・22号住居跡、A－1号道路状遺構、W－1・2号溝跡

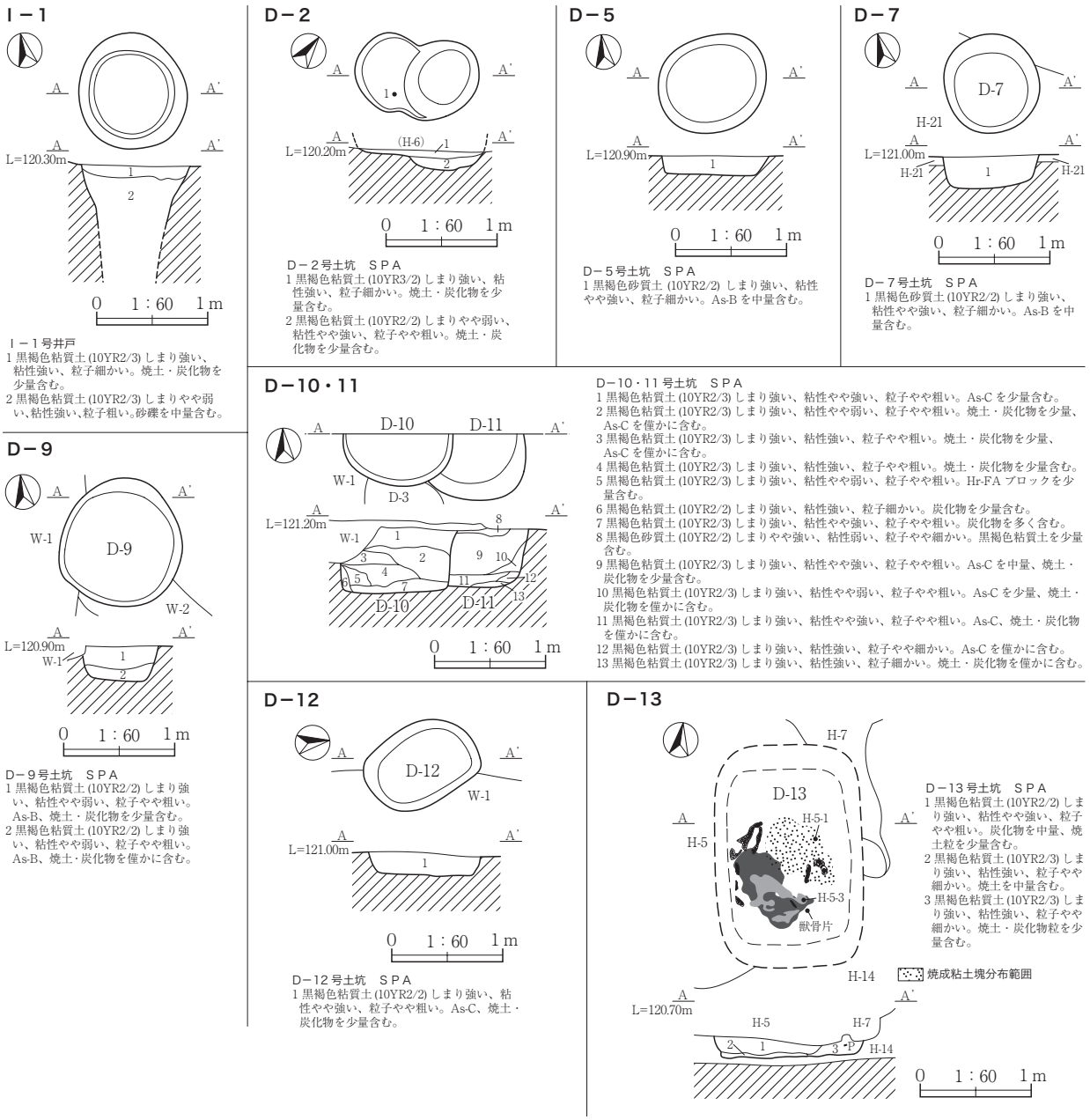


Fig.14　Ｉ－１号井戸、Ｄ－２・５・７・９～13号土坑

Tab. 2　井戸、土坑、ピット計測表

遺構名	位　置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	平面形状	主な遺物	時期	備　　考
A区　I－1	X 208、Y 50	1.03	0.97	－	円形	羽釜、須恵器小皿	10～11世紀	新旧関係：H－1→本遺構。
A区　D－1	X 205、Y 50	0.43	0.33	0.3	円形	－	中世以降	新旧関係：H－3→H－4→本遺構。
A区　D－2	X 207、Y 50	1.13	0.73	0.15	不整長楕円	須恵器小皿（1）	11世紀	新旧関係：H－6→本遺構。
B区　D－3	X 201、Y 45	0.85	0.65	0.13	不整円形	－	中世以降	新旧関係：W－1→本遺構。
B区　D－4	X 201、Y 46	0.88	0.88	0.12	円形	－	中世以降	新旧関係：D－本遺構・8。
B区　D－5	X 201・202、Y 46	1.02	0.88	0.18	楕円形	－	中世以降	重複なし。
B区　D－6	X 201、Y 45・46	0.67	0.64	0.13	円形	－	中世以降	重複なし。
B区　D－7	X 200・201、Y 46・47	0.89	0.88	0.16	円形	－	中世以降	新旧関係：H－21→本遺構。
B区　D－8	X 201、Y 45・46	0.94	0.92	0.9	円形	－	中世以降	新旧関係：→D－4・本遺構。
B区　D－9	X 201、Y 46	1.14	1.11	0.11	円形	－	中世以降	新旧関係：W－1→本遺構。
B区　D－10	X 201、Y 45	(0.99)	(0.48)	0.29	(円形)	－	中世以降	新旧関係：D－11→本遺構。
B区　D－11	X 201、Y 45	(0.98)	(0.59)	0.29	(円形)	土師器坏・甕・鉢	5～6世紀	新旧関係：本遺構→D－10。
B区　D－12	X 201、Y 46	(1.02)	(0.74)	0.2	隅丸長方形	土師器坏・甕・鉢	5～6世紀	新旧関係：本遺構→W－1。
A区　D－13	X 206、Y 50	－	－	－	－	灰釉陶器片	9～10世紀	新旧関係：H－5・本遺構。焼土・炭化物・焼成粘土塊を多く含む。
A区　P－1	X 205、Y 51	(0.43)	(0.40)	0.9	円形	灰釉陶器片	中世以降	新旧関係：H－10→本遺構。
A区　P－2	X 207、Y 50	0.33	0.3	0.25	円形	灰釉陶器片	中世以降	新旧関係：H－6→本遺構。

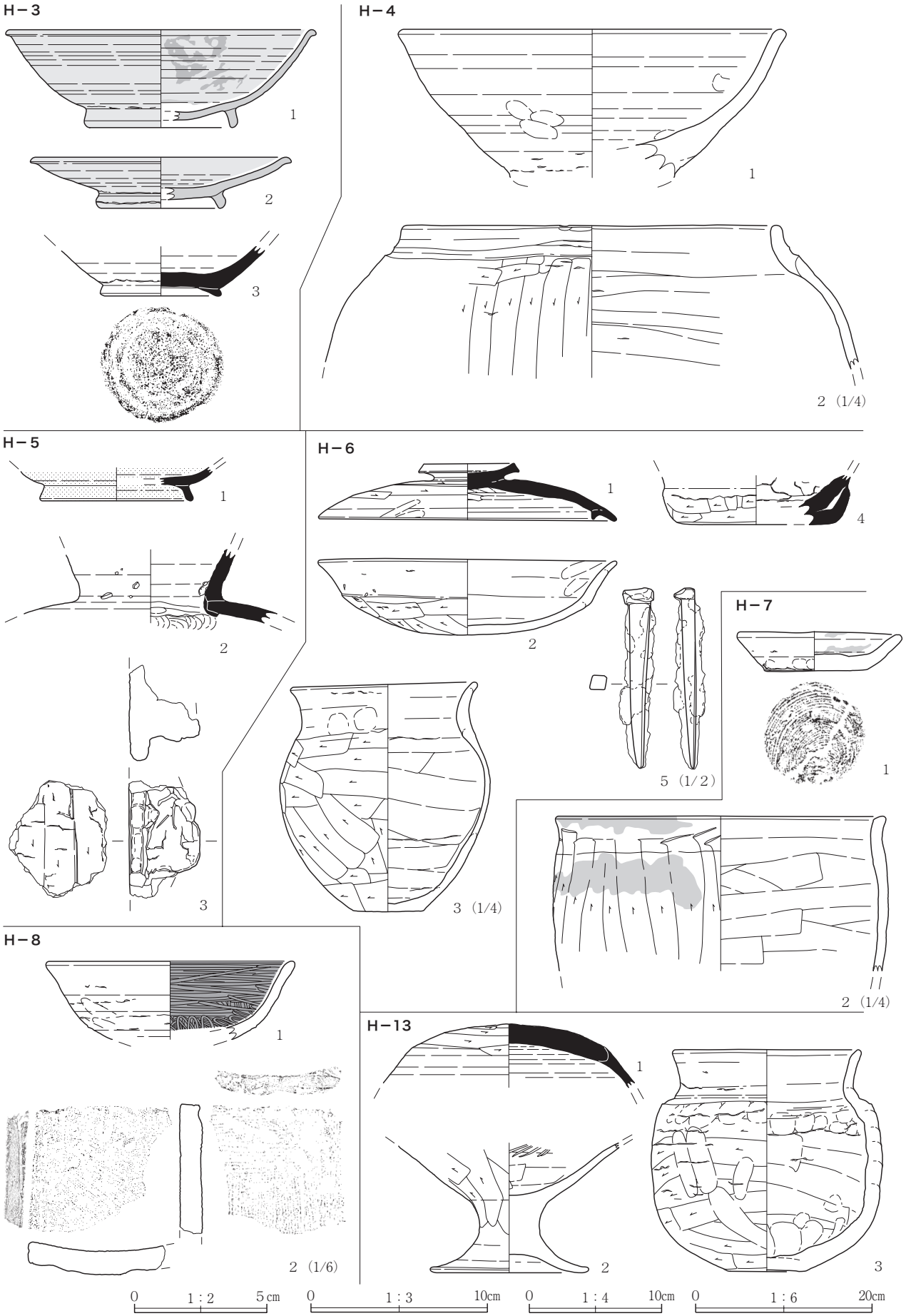


Fig.15　H－３～８・13 出土遺物

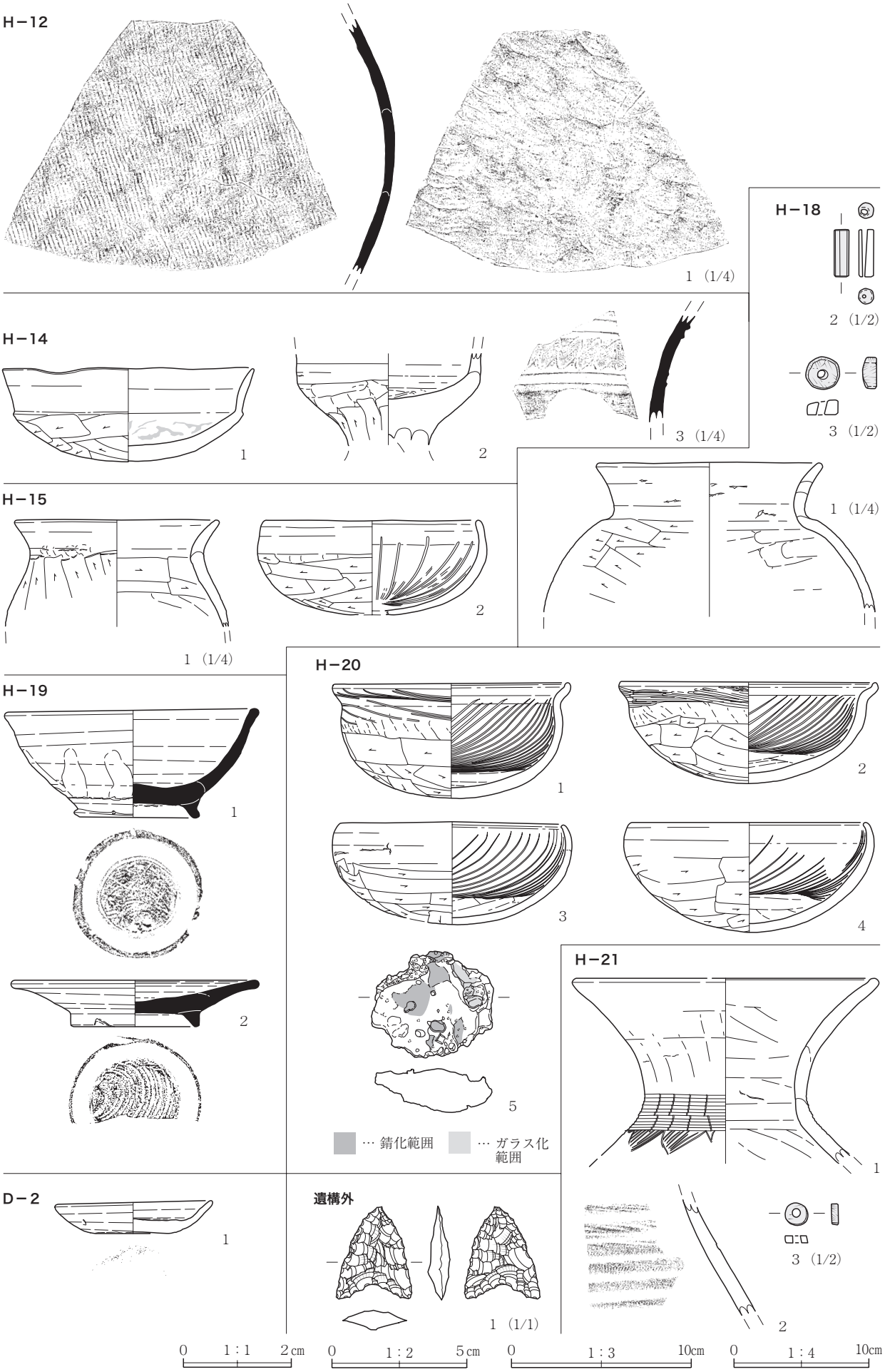


Fig.16　H－12・14・15・18～21、D－2、遺構外出土遺物

Tab. 3　元総社北小学校遺跡出土遺物観察表

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1	灰釉陶器 碗	〔17.6〕	〔8.0〕	5.6	夾雑物少ない	堅緻	外面：灰白 内面：灰白	外面：回転ナデ→底部回転ヘラケズリ→「三日月高台」貼付→口～体部ハケヌリによる灰釉施釉。釉調乳白色。高台端部摩滅顕著。 内面：回転ナデ→口～体部ハケヌリによる灰釉施釉。釉調乳白色。	1/5。 美濃産。光ヶ丘1号窯式期。 カマド内。
2	No.4	灰釉陶器 皿	〔14.8〕	〔6.8〕	2.9	黒色粗粒	堅緻	外面：灰白 内面：灰白	外面：回転ナデ→底部回転ヘラケズリ→「三日月高台」貼付→口～高台部上半ハケヌリみよる灰釉施釉。釉調淡緑色。高台端部摩滅顕著。 内面：回転ナデ→口～体部ハケヌリ、底部ハケヌリによる帯状の灰釉施釉。底部内面摩滅顕著。	1/4。 猿投産。黒笹90号窯式期。 床面直上。
3	No.8	須恵器 高台付坏	－	6.8	(3.0)	黒色粒	やや不良	外面：灰白～灰 内面：灰白～灰	外面：回転ナデ→底部回転糸切り→高台貼付。 内面：回転ナデ。	1/3。 覆土下層。

H－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.3	須恵器 大型埦	〔22.0〕	－	(8.4)	長石、黒色粒、赤色粗粒	良好	外面：橙 内面：橙	外面：回転ナデ→体部下端回転ヘラケズリ。 内面：回転ナデ。	口縁～体部1/4。 酸化焔焼成。カマド内。
2	No.3	土師器 土釜	〔28.5〕	－	(11.5)	角閃石、石英、長石、チャート、粗粒砂	良好	外面：にぶい褐 内面：にぶい褐	外面：胴部縦位ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。 内面：胴部ユビナデ。口縁部ヨコナデ。	口縁～体部片。 カマド内。

H－5

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.1	緑釉陶器 碗	－	〔8.4〕	(1.9)	夾雑物少ない	堅緻	外面：緑 内面：淡黄緑 断面：灰褐	外面：回転ナデ→高台貼付→全面緑釉施釉。釉調緑色。 内面：回転ナデ→全面緑釉施釉。釉調淡黄緑色。	1/5。 還元焔焼成。硬質素地。
2	No.8	須恵器 横瓶	－	－	(4.3)	長石、白色粒	堅緻	外面：暗灰 内面：灰色 断面：灰色	外面：肩部ナデ。頸部ヨコナデ→部分的に自然釉付着。 内面：肩部同心円当て具→口縁部接合粘土帯（頸部「内面接合」技法）→頸部ヨコナデ。→頸部降灰・窯壁片付着。	頸部～肩部片。
No	出土位置	種別、器種	長径	短径	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No.4	土製品 不明	(6.7)	(5.5)	(4.0)	輝石、長石、粗粒砂	不良	外面：橙 断面：灰黄褐	外面はヘラナデによる平滑な面をもつ。断面にスサ状の混入物の痕跡。内面は欠損。竈形土製品の可能性あり。	破片。

H－6

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.4～6	須恵器 蓋	17.0	摘み径 5.6	3.4	長石、黒色粒	堅緻	外面：暗灰黄 内面：暗灰黄 断面：淡黄	外面：回転ナデ→天井部上半回転ヘラケズリ→環状摘み貼付。 内面：回転ナデ→天井部上半ユビナデ。有カエリ。	略完存。 秋間産。 床面直上。
2	No.3	土師器 坏	17.0	丸底	4.4	角閃石、石英、長石、黒色細粒	良好	外面：褐 内面：褐	外面：口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ。底部摩滅し調整痕不明瞭。	2/3。 蓋模倣坏。カマド内。
3	No.2・7	土師器 小型甕	14.2	5.3	17.5	白雲母片岩、長石、中粒砂	良好	外面：橙 内面：橙	外面：口縁部ヨコナデ、体部斜位ヘラケズリ→肩部・体部下端横位ヘラ削り、底部ヘラケズリ。 内面：体～底部ナデ→口縁部ヨコナデ。	完存。 武蔵型甕。 カマド内。
4	覆土	須恵器 こね鉢（陶臼）	－	〔8.3〕	(2.9)	長石、黒色細粒	堅緻	外面：灰 内面：灰	外面：体部回転ナデ→体部下端～底部ヘラケズリ。底部摩滅顕著。 内面：敲打による表面剥離顕著。底部器壁厚い。	体部下端～底部片。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	重量		器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	覆土	鉄製品 釘	6.8	1.0	1.1	鉄	9.2 g		－	略完存。

H－7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.6	須恵器 小皿	9.4	5.8	2.4	石英、黒色岩片	良好	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	外面：回転ナデ→底部回転糸切り。 内面：回転ナデ。油煙状の付着物。	完存。 酸化焔焼成。カマド内。
2	No.5	土師器 土釜	〔25.0〕	－	(11.7)	角閃石、チャート、小礫	良好	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄褐	外面：体部縦位ヘラナデ→口縁部ヨコナデ。肩部に輪状のスス付着。 内面：体部ナデ→口縁部ヨコナデ。	口縁～体部片。 カマド内。

H－8

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.2	黒色土器 坏	〔14.0〕	－	(4.4)	白雲母片岩、石英	良好	外面：黄橙 内面：黒	外面：回転ナデ。 内面：ミガキ。炭素吸着による黒色処理。	1/2。 床面直上。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	重量 / 器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No.1	瓦 平瓦	(14.8)	(16.3)	2.8	泥岩片、黒色粒	堅緻	凹面：灰 凸面：灰	814.2 g / 凹面：狭端面・側面ヘラケズリ。布目痕。糸切り痕。 凸面：長縄タタキ。	1/6。 秋間産。床面直上。

H－12

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.2	須恵器 甕	－	－	(18.5)	黒・白色細粒	堅緻	外面：暗灰 内面：灰 断面：灰赤	外面：平行タタキ。胴部上半自然釉付着、降灰。釉調透明。 内面：同心円当て具。	胴部中位片。 陶邑産。 床面直上。

H－13

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.9	須恵器 蓋	－	－	(3.6)	長石・小礫	堅緻	外面：暗青灰 内面：暗青灰	外面：口縁部回転ナデ→天井部回転ヘラケズリ。「八」の字状口縁。 内面：回転ナデ。	1/3。 金山産。貯蔵穴内。
2	No.5	土師器 高坏	－	〔9.0〕	(7.4)	角閃石、石英、長石、赤色岩片	良好	外面：橙 内面：橙	外面：脚部ヨコナデ→底部縦位ヘラケズリ。 内面：ヘラナデ→体部放射状ミガキ。	3/5。 床面直上。
3	No.6・覆土	土師器 小型甕	10.7	4.9	13.0	角閃石、長石、小礫	やや良好	外面：橙～明赤褐 内面：橙～明赤褐	外面：肩部ユビオサエ、胴部上半ユビナデ→口縁部ヨコナデ、胴部下半～底部ヘラケズリ。胴部上半輪積み痕顕著。 内面：ユビナデ→口縁部ヨコナデ。	略完存。 胴部外面に剝落痕。 床面直上。

H－14

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.38	土師器 坏	〔13.4〕	－	5.1	角閃石・石英・赤色粗粒	やや不良	外面：橙 内面：橙	外面：口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ（摩滅し不明瞭）。 内面：底部ナデ、口縁部ヨコナデ（摩滅し不明瞭）。底部に漆状の付着物。	3/4 残存。 「無黒斑橙色土器」。カマド内。
2	覆土	土師器 高坏	－	－	(5.2)	石英、チャート、赤・黒岩片	良好	外面：橙～明赤褐 内面：橙～明赤褐	外面：底部ユビナデ、脚部縦位ヘラケズリ→口縁部ヨコナデ。 内面：底部ナデ、口縁部ヨコナデ。	1/5。
3	No.15	須恵器 甕	－	－	(7.5)	長石、黒・白色細粒	堅緻	外面：灰 内面：灰 断面：灰赤	外面：２条１単位の鋭く明瞭な横位突帯で区画した内部に、精緻な波状文を施文。 内面：ヨコナデ。	頸部片。 陶邑産。 覆土下層。

H－15

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No 12・覆土	土師器 長胴甕	〔15.2〕	－	(8.3)	石英、長石、黒色岩片	良好	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ→胴部斜位ヘラケズリ。胴部に最大径。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ→肩部横位ヘラケズリ。	口縁～胴部上位1/3。 覆土中層。
2	覆土	土師器 坏	〔11.8〕	－	5.4	チャート、赤色岩片	良好	外面：明赤褐 内面：明赤褐	外面：口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ。 内面：ヨコナデ→粗い放射状ミガキ。	1/4 残存。

H－18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.4・6・10～12・覆土	土師器 甕	〔16.8〕	－	(11.4)	輝石、石英、長石、白色粒、粗粒砂	良好	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	外面：口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。 内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	口縁～胴部上位片。 覆土下層。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	No.1	石製品 管玉	1.81	0.63	0.63	緑色岩	濃緑	1.3 g	全面研磨。研磨による縦位の鎬を僅かに有する。 上端面孔径 2.1mm、下端面孔径 0.7mm	完存。 覆土下層。
3	No.2	石製品 臼玉	1.19	1.19	0.58	滑石	暗灰～灰白	1.2 g	全面研磨。側面には緩やかな研磨面と擦痕が顕著。 孔径 2.9mm。	完存。 覆土下層。

H－19

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 1	須恵器 高台付坏	〔13.6〕	7.1	(6.1)	長石、黒色粒	堅緻	外面：灰白 内面：灰白	外面：回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。体部に黒斑。 内面：回転ナデ。底部に黒斑。	3/4。 覆土下層。秋間産。
2	No. 3	須恵器 皿	〔13.8〕	7.1	2.6	長石、黒色細粒	堅緻	外面：褐灰 内面：褐灰	外面：回転ナデ、底部回転糸切り→高台貼付。底部外縁に爪痕列。 内面：回転ナデ。	2/5 残存。 覆土下層。

H－20

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No.12・15	土師器 坏	13.2	－	6.4	輝石、白色粒、赤色岩片	良好	外面：明赤褐 内面：明赤褐	外面：体部上端ユビナデ→体部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ→口縁部斜位ミガキ。底部に黒斑。 内面：体～底部ナデ、口縁部ヨコナデ→体部放射状ミガキ。	4/5。 内斜口縁坏。 床面直上。
2	No.1・覆土	土師器 坏	14.3	－	5.6	角閃石、輝石、石英	良好	外面：明赤褐 内面：明赤褐	外面：体部上端ユビナデ→体部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ→口縁部斜位ミガキ。 内面：体～底部ナデ、口縁部ヨコナデ→体部放射状ミガキ。	3/5。 内斜口縁坏。 Ｐ１。
3	No.2～4	土師器 坏	12.5	－	5.7	角閃石、輝石、石英、長石、赤色岩片	良好	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	外面：口縁部ヨコナデ→体～底部ヘラケズリ。体～底部に黒斑。 内面：底部ナデ、口縁部～体部ヨコナデ→口縁部～体部放射状ミガキ。	略完存。 覆土最下層。
4	No.12	土師器 坏	〔13.4〕	－	6.2	角閃石、石英、チャート	良好	外面：橙 内面：明赤褐	外面：口縁部ヨコナデ→体～底部ヘラケズリ。底部に黒斑。 内面：底部ナデ、口縁部～体部ヨコナデ→口縁部～体部放射状ミガキ。	2/3。 床面直上。

No	出土位置	種別、器種	長径	短径	厚さ	材質	焼成	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
5	No.22	鍛冶滓	6.8	5.9	2.5	鉄滓	－	外面：褐灰 内面：暗灰	59.4 g	外面に砂付着。内面にガラス状の付着物。気泡あり。羽口接続部付近か。	破片。 掘り方。

H－21

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	No. 9	弥生土器 壺	〔16.8〕	－	(10.3)	輝石、黒色粒、中粒砂	良好	外面：橙 内面：橙	外面：肩部に沈線による鋸歯文を施文し、内部に斜位の沈線を充填。鋸歯文の上部に２列１単位の簾状文を施文。 内面：ナデ。	口縁～肩部片。 樽式。 床面直上。
2	No. 2	弥生土器 壺	－	－	(8.0)	輝石、石英、黒色粒	良好	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	外面：肩部に細沈線による鋸歯文を施文し、内部に斜位の細沈線を充填。鋸歯文の上部を横位沈線で区画し、櫛描波状文を施文。 内面：ナデ。	肩部片。 樽式。 床面直上。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	No. 1	石製品 臼玉	0.78	0.78	0.29	頁岩	濃緑	0.3 g	全面研磨。側面には縦位の擦痕顕著。 孔径 2.5mm。	完存。

土坑

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	D-2 No.1	須恵器 小皿	8.9	5.2	1.9	長石、黒色岩片、小礫、粗粒砂	やや不良	外面：橙 内面：橙	外面：回転ナデ、底部回転糸切り。 内面：回転ナデ。	3/4。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	色調	重量	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	A 区トレンチ	石器 石鏃	1.7	1.3	0.4	黒曜石	黒	0.6 g	左右側縁は僅かに丸みをもたせ、縁辺及び凹基部共に丁寧な微細剥離により整った形状を作出している。	完存。 凹基無茎鏃。

Ⅵ　発掘調査の成果と課題

１．はじめに

今回の調査では、弥生時代後期から 11 世紀にかけての住居跡を 22 軒調査した。この中で量的な主体を占めるのは９世紀後半から 10 世紀後半にかけての遺構である。検出の傾向として重複が激しく、遺構密度も高い。その上、狭い範囲での調査のため遺構の大部分が調査区外にあり詳細が不明な箇所も多々あるが、ここではこれらの検出した住居跡を時期ごとに大別し、周辺の調査事例も含めて本遺跡の集落変遷と特徴についてまとめてみたい。

２．集落の変遷と特徴

本遺跡から縄文時代の遺構は確認できなかったが、覆土層中から縄文土器片（Ｈ－１～４・13・15・18）や、遺構外だが黒曜石の石鏃（遺構外－１）などが出土した。周辺遺跡でも同様に遺構は検出されないが、遺物は出土する例は多く、総社閑泉明神北Ⅲ遺跡からは縄文時代前期（諸磯ｂ式期）の、元総社小見内Ⅶからは縄文時代中期（加曽利ＥⅢ期）の住居跡が検出されている。

弥生時代後期ではＢ区から１軒、Ｈ－21 を確認した。床面直上からは樽式期の土器（１・２）が出土したが、炉跡は確認できなかった。覆土中位からは臼玉（３）も出土した。該期以外の遺構の覆土層中からも弥生土器片が出土しており（Ｈ－２・６・10・11・13～15・20・21、Ｗ－２、Ｄ－９・12）、周辺に住居跡が点在する可能性もある。本遺跡では住居跡の検出はＨ－21 が北限となり、他の住居跡と比べて極端に掘り込みが浅い。周辺遺跡では牛池川対岸の元総社小見内Ⅲ遺跡にて該期の住居跡が２軒検出されている。

３～４世紀代の遺構は確認できなかった。弥生時代に続き本遺跡周辺では該期の遺構は非常に少なく、小見内Ⅲ遺跡にて４軒の住居跡が検出されているのみである。

５世紀代では住居跡がやや増加して４軒、Ｈ－11・12・18・20を確認した。Ｈ－12・18・20は５世紀後半の住居跡と推定した。遺構の重複と調査区外のため、いずれもカマドは確認できなかった。主軸方向は多少の差があるが、おおむね同方向である。Ｈ－18からは管玉と臼玉（２・３）を、Ｈ－20では掘り方から羽口接続部付近と思われる鍛冶滓（５）が出土したが、鍛冶跡は確認していない。周辺遺跡でも該期の鍛冶跡は確認されていない。総社閑泉明神北Ⅱ遺跡では同時期の住居跡が４軒確認されている。

６世紀初頭では２軒、Ｈ－15・22を検出した。Ｈ－22はほぼカマドのみの検出で、Ｈ－15は調査区外のためカマドを検出できなかった。主軸方向は２軒とも同一である。Ｈ－22の貯蔵穴はカマドの右側に確認した。周辺遺跡でも貯蔵穴はカマドの右側に確認されている。周辺では元総社中学校遺跡にて同時期の住居跡が２軒確認された。

６世紀後半の住居跡として２軒、Ｈ－13・14を検出した。２軒ともカマドを検出した。主軸方向はＨ－13がＥ－32°－Ｎ、Ｈ－14がＥ－13°－Ｎと、多少の差があるがほぼ同方向と言える。しかし、貯蔵穴の位置に違いがあり、Ｈ－13ではカマドの左側に、Ｈ－14では右側に確認した。小見内Ⅲ遺跡でも同時期に２軒、カマドの左側に貯蔵穴を持つ住居跡が確認されている。総社甲稲荷塚大道西Ⅱ・Ⅲでも同時期の住居跡が各４軒検出されている。

７世紀前半の住居跡は確認できなかった。周辺遺跡にも該期の住居跡検出は非常に少ないが、小見内Ⅲ遺跡では24軒と、他の周辺遺跡に比べ集中しており特徴的である。

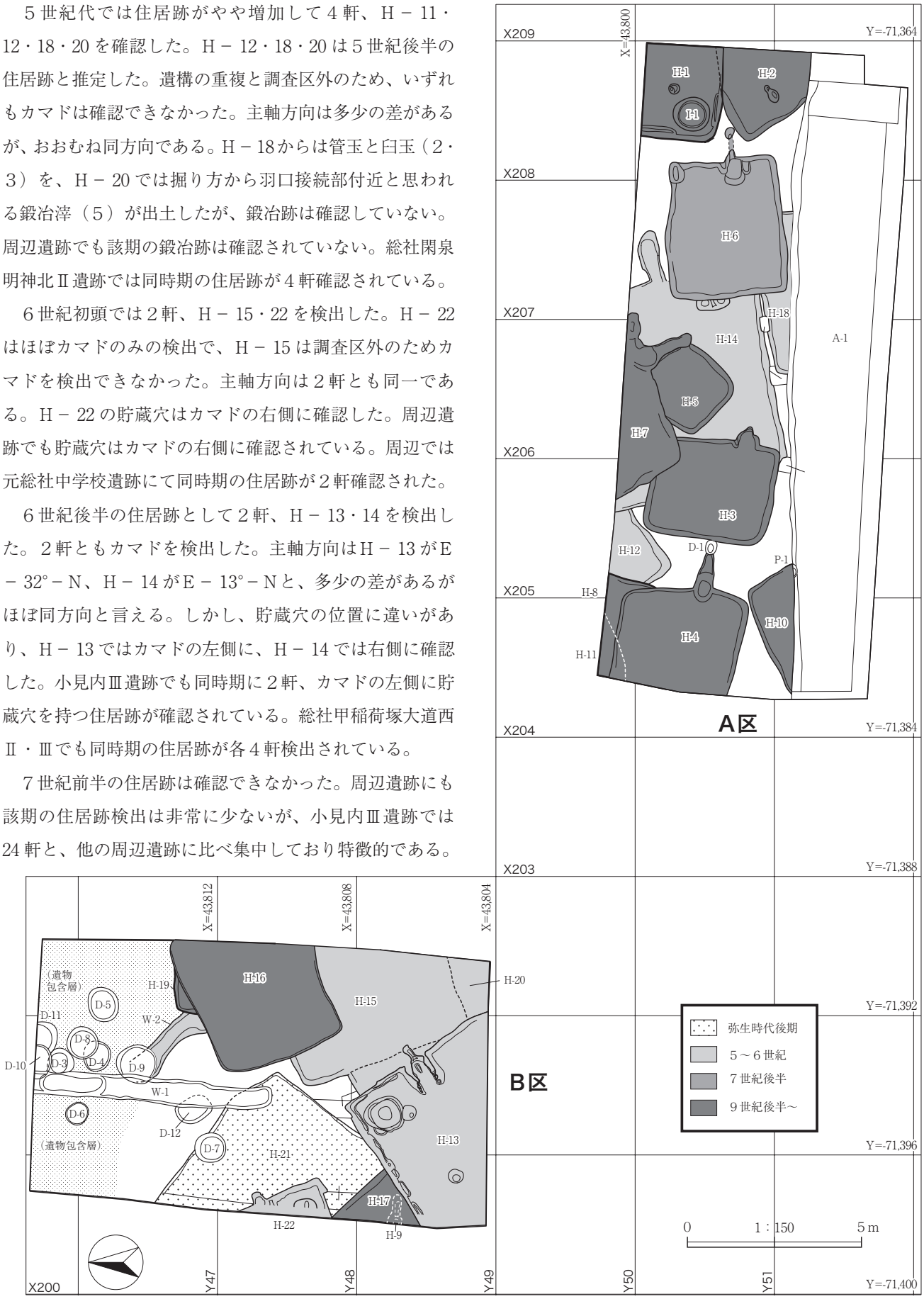


Fig.17　元総社北小学校　住居跡変遷図

７世紀後半では１軒、Ｈ－６を検出した。カマドの残りが非常によく、煙道部分も崩落していない。７世紀前半に引き続き周辺遺跡での検出例は少ないが、小見内Ⅲ遺跡のみ、前時期に引き続き 42 軒と集中している。同遺跡での傾向としては、調査区の東側が薄く、西側が濃い特徴がみられる。

８世紀代では本遺跡に遺構は確認できなかった。周辺では７世紀後半まで住居跡の検出例は少数だが８世紀になるとにわかに増加する。総社甲稲荷塚大道西Ⅰ～Ⅲ、小見内Ⅲ・Ⅳ・Ⅶ～Ⅸなどで確認でき、小見内Ⅲでは７世紀後半と比べるとやや減少するが 31 軒確認された。

９世紀代になると住居跡は増加し、Ｈ－１・８・９・19の４軒を確認した。カマドを確認できたのはＨ－９のみ。周辺遺跡でも８世紀代に挙げた遺跡にて住居跡が検出された。

10 世紀前半から 11 世紀では８軒、Ｈ－２～５・７・10・16・17 を検出した。カマドを確認できたのはＨ－３～５・７で、このうちＨ－３では右袖石を、Ｈ－７では両袖石と支脚を確認した。Ｈ－７のカマドは遺存状態が非常に良く、煙道部の天井も崩落していない。Ｈ－２からは灰釉陶器浄瓶かと思われる破片を検出した。またＨ－２の北に同時期の井戸（Ｉ－１）を確認した。Ｈ－ 16 は北限にあり、他の住居と比べて掘り込みが浅い。

３．おわりに

本遺跡の集落変遷について概観する。弥生時代後期頃に集落を営み始めるが、古墳時代前期から中期になると一旦集落が途切れ、後期には再び増加傾向を見せる。飛鳥時代には再度途切れ、７世紀後半には１軒のみ確認した。周辺遺跡でも同様に検出数が少ないが、小見内Ⅲ遺跡では７世紀前半に 24 軒、７世紀後半に 42 軒の住居跡が確認され、突出した検出数が特徴である。９世紀前半まで空白期が続いた後、９世紀後半に再び増加に転じ、10 世紀前半になると住居跡の軒数が急激に増加する。その数は 10 世紀後半から 11 世紀まで衰えず踏襲される。

各年代を通しての特徴としては、カマドはおおむね東壁に設置すること。カマドの内壁がよく焼けていて硬いこと。貯蔵穴や柱穴の検出が少ない（貯蔵穴は確認したカマド９基の内３基、柱穴は 22 軒の内３軒の確認に留まる）こと。Ｈ－ 16・21 を除いて掘り込みが深いこと（30 ～ 60cm）が挙げられる。

Tab. 4　周辺遺跡時期別住居跡軒数表

遺跡名	位置	調査面積（㎡）	弥生時代	3世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀（前）	7世紀（後）	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀～
元総社北小学校	X = 200 ～ 209、Y = 45 ～ 52	208	1	-	-	4	4	-	1	-	4	6	2
元総社中学校	X = 234 ～ 238、Y = 48 ～ 54	130	-	-	-	1	2	-	-	1	2	-	4
元総社牛池川	X = 176 ～ 239、Y = 80 ～ 101	4,133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
元総社北川	X = 100 ～ 176、Y = 5 ～ 86	26,700	-	-	-	-	1	-	-	1	8	4	-
総社甲稲荷大道西	X = 252 ～ 272、Y = 39 ～ 91	465	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	7
総社甲稲荷大道西Ⅱ	X = 256 ～ 266、Y = 43 ～ 56	420	-	-	-	-	4	-	-	4	4	16	1
総社甲稲荷大道西Ⅲ	X = 244 ～ 279、Y = 39 ～ 94	1,416	-	-	-	-	4	-	-	6	8	2	5
総社甲稲荷大道西Ⅳ	X = 278 ～ 285、Y = 53 ～ 68	490	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総社稲荷大道西 No.2	X = 244 ～ 248、Y = 13 ～ 18	106	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-
総社閑泉明神北	X = 245 ～ 253、Y = 133 ～ 160	5,100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
総社閑泉明神北Ⅱ	X = 266 ～ 285、Y = 132 ～ 138	355	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4	2
総社閑泉明神北Ⅲ	X = 272 ～ 276、Y = 111 ～ 125	435	-	-	-	-	5	-	-	3	-	1	15
総社閑泉明神北Ⅳ	X = 240 ～ 248、Y = 107 ～ 135	3,957	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総社閑泉明神北Ⅴ	X = 261 ～ 267、Y = 136 ～ 137	293	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
元総社小見内Ⅲ	X = 105 ～ 240、Y = 70 ～ 110	6,091	2	4	-	1	-	24	42	31	31	36	6
元総社小見内Ⅳ	X = 88 ～ 149、Y = 127 ～ 136	1,924	-	-	-	-	-	1	-	11	2	13	1
元総社小見内Ⅴ	X = 190 ～ 191、Y = 93 ～ 95	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
元総社小見内Ⅵ	X = 119 ～ 155、Y = 108 ～ 150	1,034	-	-	-	-	-	-	1	-	2	4	1
元総社小見内Ⅶ	X = 65 ～ 102、Y = 96 ～ 99	1,093	-	-	-	-	-	-	7	8	1	-	-
元総社小見内Ⅷ	X = 108 ～ 136、Y = 95 ～ 151	809	-	-	-	-	-	-	-	8	2	4	-
元総社小見内Ⅸ	X = 78 ～ 110、Y = 132 ～ 158	1,475	-	-	-	-	-	-	-	4	-	13	-
元総社小見内Ⅹ	X = 80 ～ 127、Y = 149 ～ 155	2,352	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-

調査区全景（上が北）

調査区全景（北東から）

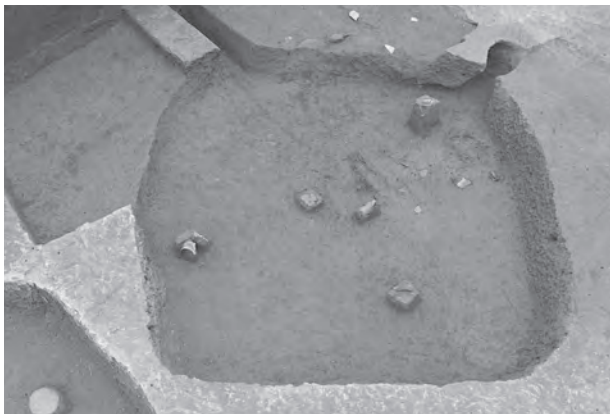
Ｈ－１号住居跡全景（西から）

Ｈ－２号住居跡全景（南西から）

Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－４号住居跡全景（西から）

Ｈ－４号住居跡カマド全景（西から）



Ｈ－５号住居跡全景（南西から）

Ｈ－６号住居跡全景（西から）

Ｈ－６号住居跡カマド全景（西から）

Ｈ－７号住居跡全景（南西から）

Ｈ－７号住居跡カマド全景（北西から）

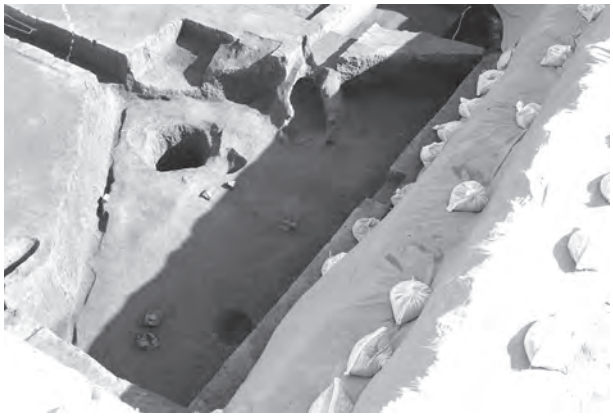
Ｈ－８号住居跡全景（西から）

Ｈ－９号住居跡カマド全景（西から）

Ｈ－10号住居跡全景（北西から）

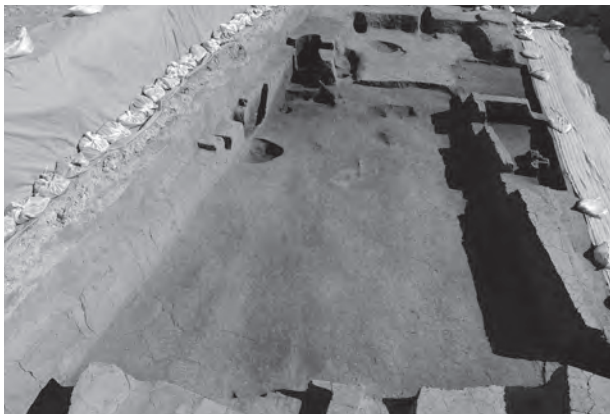
Ｈ－11号住居跡全景（南から）

Ｈ－12号住居跡全景（北東から）



Ｈ－13号住居跡全景（南西から）

H－13号住居跡カマド全景（南西から）


H－14号住居跡全景（西から）

H－14号住居跡カマド全景（西から）

H－15号住居跡全景（南西から）

H－16号住居跡全景（南西から）

H－17号住居跡全景（南西から）

H－18号住居跡全景（南から）

H－19号住居跡全景（西から）

Ｈ－20号住居跡全景（北西から）

Ｈ－21号住居跡全景（北西から）

Ｈ－22号住居跡全景（南西から）

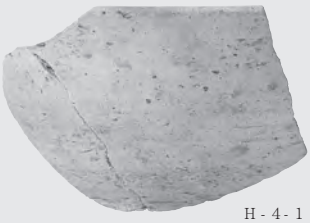
Ｂ区作業風景（北東から）

遺跡説明会の様子（北から）

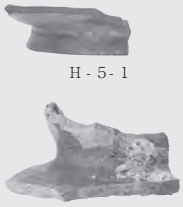
H - 3 - 1

H - 3 - 2

H - 3 - 3


H - 4 - 1

H - 4 - 2 (1/4)


H - 5 - 1

H - 5 - 2 (1/4)

H - 6 - 1

H - 6 - 3 (1/4)

H - 5 - 3

H - 6 - 2

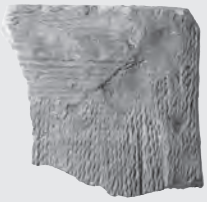
H - 7 - 1

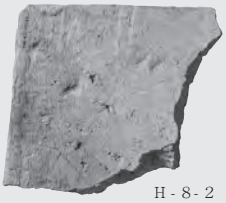
H - 8 - 1

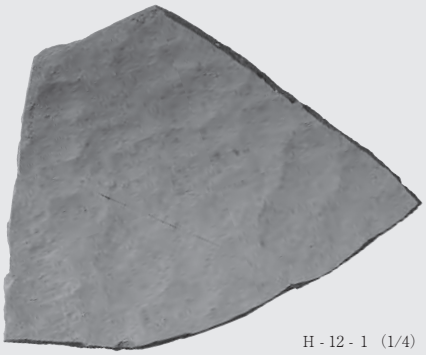
H - 6 - 4

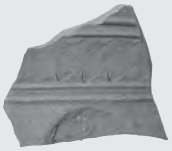
H - 6 - 5 (1/2)

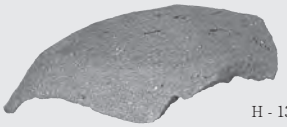
H - 7 - 2



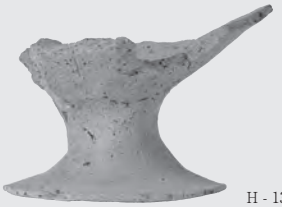

H - 8 - 2 (1/6)


H - 12 - 1 (1/4)


H - 14 - 3 (1/4)

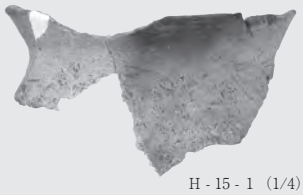

H - 13 - 1

H - 14 - 1

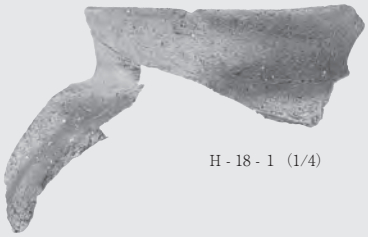

H - 13 - 2

H - 13 - 3 (1/4)

H - 14 - 2


H - 15 - 1 (1/4)

H - 15 - 2

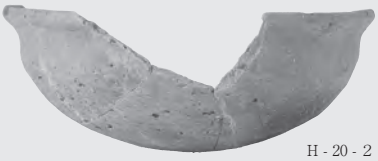

H - 18 - 1 (1/4)

H - 18 - 2
(1/1)

H - 18 - 3
(1/1)

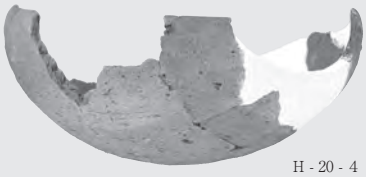
H - 19 - 1

H - 20 - 1


H - 20 - 2

H - 19 - 2

H - 20 - 3

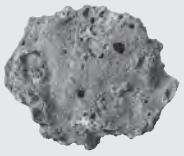

H - 20 - 4

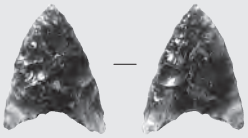
H - 21 - 1

H - 21 - 2

H - 21 - 3
(1/1)

D - 2 - 1


H - 20 - 5


遺構外 - 1 (1/1)

D - 13 - 焼成粘土塊 (1/3)

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャキタショウガッコウイセキ
書名	元総社北小学校遺跡
副書名	元総社北小学校プール改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	松村春樹
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１丁目15番地３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
発行年月日	2021年１月29日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャキタショウガッコウイセキ 元総社北小学校遺跡	マエバシシソウジャマチソウジャ 前橋市総社町総社 3149	102016	２Ａ260	36°23'32	139°2'14	20201001 ～ 20201202	208㎡	元総社北小学校 プール改築建築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社北小学校遺跡	集落 交通 その他	弥生時代 古墳時代 平安時代 中世	住居跡　22軒 溝跡　２条 道路状遺構　１条 井戸　１基 土坑　12基 ピット　２基 包含層　１箇所	縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品、臼玉、管玉	・牛池川崖線に立地する、弥生時代後期、５～６世紀後半、７世紀後半、９～11世紀の住居跡。 ・As-B軽石混土層が堆積する道路状遺構。

元総社北小学校遺跡
元総社北小学校プール改築建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021年１月18日　印刷
2021年１月29日　発行

発行　前橋市教育委員会
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
ＴＥＬ　027-280-6511

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社